

山梨県韋崎市

坂井堂ノ前遺跡

藤井郵便局建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1996

韋崎市教育委員会
韋崎市遺跡調査会

山梨県韋崎市

坂井堂ノ前遺跡

藤井郵便局建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1996

韋崎市教育委員会
韋崎市遺跡調査会

序 文

韮崎市の穀倉地帯である藤井平は、遺跡の宝庫として広く一般に知られており、これまでに県営圃場整備事業や公共事業に係り多くの遺跡が発掘調査され貴重な文化財が発見されています。なかでも、市立北東小学校建設にともない平成元年～2年に実施された宮ノ前遺跡の調査では奈良・平安時代を中心として400軒あまりの住居跡が発見されています。近年では公共事業ばかりでなく民間の開発にともなう調査も増加し、埋もれた郷土の歴史が次第に明らかになりつつあります。この度刊行された本書は、このような埋蔵文化財発掘調査件数の増加する藤井平の一角で発掘調査された坂井堂ノ前遺跡の報告であります。

坂井堂ノ前遺跡は、韮崎市文化ホール前通り線建設にかかり、その路線上にあった藤井郵便局の移転建設にともなって平成7年度に発掘調査されました。詳細は報告文に譲りますが、古墳時代後期の堅穴住居址2軒、奈良時代の堅穴住居址2軒などが発見されました。これまでには古墳時代後期の遺跡は調査例がなかったと聞き及んでおり、同じ年に調査された、後田第2遺跡では同時期の遺構が、また枇杷塚遺跡ではそれよりも古い古墳時代中期の遺構が発見されており、坂井堂ノ前遺跡を含めたこれらの遺跡発見は地域の歴史の空白部分を埋める重要な出来事と言えましょう。坂井堂ノ前遺跡の住居址からは須恵器・土師器といった当時の生活用具がみられ、それらは当時の生活や文化を知る上で貴重であり、文化財として永く後世に伝えて行かなければと思っております。本報告書が我々の先人の生活と歴史をときあかすための手助けになればと願っております。

最後に、遺跡の発掘調査並びに報告書作成に伴い、多大なる御理解と御協力を賜った関係諸機関及び関係者の皆様方に深く感謝を申し上げます。

平成8年3月31日

韮崎市遺跡調査会

会長 秋山幸一

韮崎市教育委員会

教育長 志村良典

例　　言

- 1 本書は、山梨県韮崎市藤井町坂井堂ノ前75－1番地に所在した坂井堂ノ前遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、藤井郵便局建設に係り行われた。
- 3 遺跡の名称は、小字名を用いた。
- 4 発掘調査は、地権者である下條文武氏から委託を受け、韮崎市遺跡調査会が実施した。調査組織は別に示すとおりである。
- 5 遺跡基準点はG P S 基準点設置で、株式会社一瀬調査設計による。
- 6 航空写真測量は株式会社フジテクノによる。
- 7 整理作業及び報告書作成にかかる業務は、韮崎市遺跡調査会が実施した。
- 8 凡　例
 - ① 遺構の番号は発掘調査現場において付けたものである。
 - ② 縮尺は各挿図ごとに示した。挿図中のドットは焼土をあらわす。
 - ③ 遺構断面図の水糸標高（m）は数字で示した。
 - ④ 挿図断面図の は石をあらわす。
 - ⑤ 歴史時代土器断面、白ぬきは土師器、黒は須恵器、網点は陶器をあらわす。
 - ⑥ 写真図版中遺物に付けられた番号は、実測図の番号と対応する。
- 9 発掘調査及び報告書作成に当たっては、多くの方々から御指導・御協力・御鞭撻をいただきた。一々御芳名を上げることは避けるが、厚く御礼を申し上げる次第である。
- 10 発掘調査、整理によって出土並びに作成された遺物及び資料は、韮崎市教育委員会において保管している。

調　查　組　織

- 1 調査主体　　韮崎市遺跡調査会
- 2 調査担当　　山下孝司（韮崎市教育委員会社会教育課）
- 3 調査参加者
青山みち枝・秋山東・石原ひろみ・小野初美・深沢真知子・功刀まゆみ・清水由美子・三井福江・新井立男
- 4 事　務　局（韮崎市教育委員会社会教育課）
教育長　志村良典、課長　深谷　卓、課長補佐　深沢義文、係長　内藤晴人、野口文香

目 次

序 文
例 言
目 次
挿 図 目 次
写 真 図 版 目 次

I 発掘調査の経過と概要	1
1 発掘調査にいたる経緯	
2 発掘調査の概要	
II 遺跡の立地と環境	1
1 遺跡の立地	
2 周辺の遺跡	
III 遺跡の地相概観	4
IV 遺構と遺物	5
V ま と め	28
写 真 図 版	

挿 図 目 次

第1図 坂井堂ノ前遺跡①と周辺の遺跡	2
第2図 遺跡調査区域図	3
第3図 遺跡全体平面図	4
第4図 1号住居址平・断面図	5
第5図 1号住居址出土遺物	6
第6図 2号住居址遺物出土状態・カマド平・断面図	8
第7図 2号住居址平・断面図	9
第8図 2号住居址出土遺物	9
第9図 2号住居址出土遺物	10
第10図 2号住居址出土遺物	11
第11図 3号住居址遺物出土状態	12
第12図 3号住居址平・断面図	13
第13図 3号住居址出土遺物	14
第14図 3号住居址出土遺物	15
第15図 4号住居址平・断面図	16
第16図 4号住居址出土遺物	17
第17図 4号住居址出土遺物	19
第18図 4号住居址出土遺物	20
第19図 4号住居址出土遺物	21
第20図 4号住居址出土遺物	22
第21図 4号住居址出土遺物	23
第22図 4号住居址出土遺物	24
第23図 5号住居址出土遺物	24
第24図 1号土坑平・断面図	25
第25図 1号土坑出土遺物	27
第26図 遺構外出土遺物	27

写 真 図 版 目 次

図版 1 1号住居址、発掘風景

図版 2 2号住居址、3号住居址

図版 3 4号住居址、1号土坑

図版 4 遺跡近景、1号住居址出土遺物、2号住居址出土遺物

図版 5 3号住居址出土遺物、4号住居址出土遺物

図版 6 4号住居址出土遺物、1号土坑出土遺物、遺構外出土遺物

I 発掘調査の経緯と概要

1 発掘調査にいたる経緯

平成7年4月、韮崎市都市計画課より韮崎市教育委員会に、文化ホール前通り線建設にかかり、路線上にある藤井郵便局の移転先（藤井町坂井堂ノ前75-1番地）に関して埋蔵文化財の問い合わせがあった。当該地域は堂の前遺跡の南方200mにあり遺跡の存在が予想されたため、本市教育委員会立ち会いで遺跡の有無確認を実施したところ土師器破片が出土した。その結果、県教育委員会学術文化課の指導を受け本市教育委員会・市都市計画課・藤井郵便局で協議を行い、遺跡名を坂井堂ノ前遺跡、調査主体を韮崎市遺跡調査会として、造成工事に先立って建設予定地内の約150㎡を対象として発掘調査を行い、記録に留め永く後世に伝えることとした。

2 発掘調査の概要

発掘調査期間 平成7年6月5日～7月19日

調査は重機により基本的に遺物出土確認面まで排土を行い、地形等を考慮し測量の基準として、任意に5m間隔の方眼を設定し、鋤簾等を用い精査を行い、隨時試掘溝を設定して遺構確認後掘り下げを行った。

II 遺跡の立地と環境

1 遺跡の立地

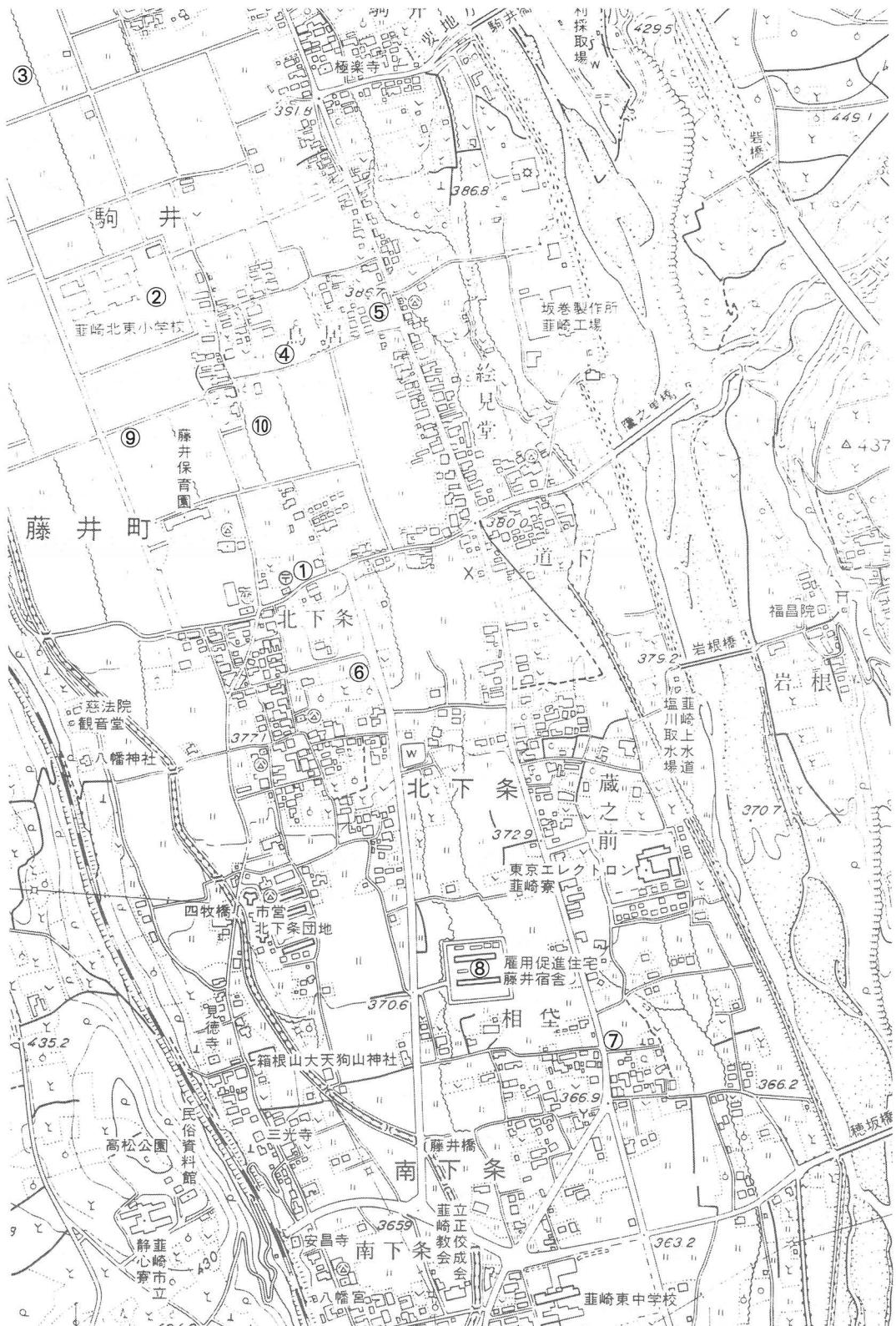
坂井堂ノ前遺跡は、山梨県韮崎市藤井町坂井字堂ノ前地内に所在した。

韮崎市は、山梨県の北西部に位置し、甲府盆地の北西端を占めている。市内を貫流する釜無川・塩川により、地形的には山地・台地・平地の三地域に分けられる。

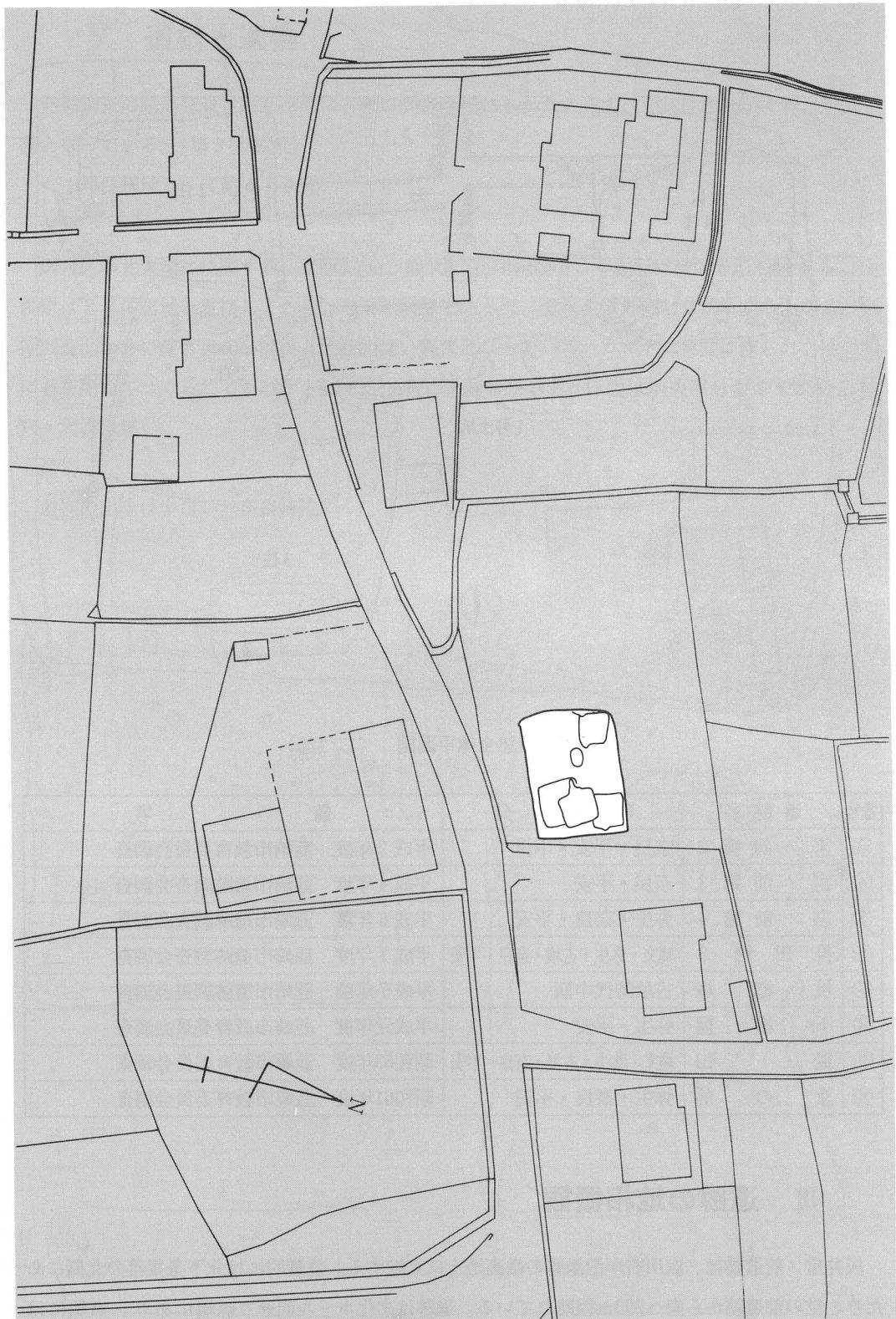
坂井堂ノ前遺跡の所在した塩川右岸の氾濫原は、塩川の浸食によって造られた茅ヶ岳山麓の断崖と、七里岩台地東側の片山とに挟まれた低地性の平地となっている。この平地は通称藤井平と呼ばれ、地内を貫流する黒沢川・藤井堰により水利がよく、肥沃で豊かな水田地帯が広がっている。また、『甲斐国志』には「穴山ヨリ南小田川、駒井、坂井、中條、下條、韮崎等ノ数村ヲ里人藤井ノ庄五千石ト云」と記載があり、古くから穀倉地帯であったことが窺える。当該地帯は一見平坦地の様相を呈してはいるが、地形を観察してみると、度重なる氾濫によって自然堤防状の微高地が所々に発達していることがわかる。藤井平は、このような微高地上に遺跡が点在しており、坂井堂ノ前遺跡は標高約380mの水田下に発見された。

2 周辺の遺跡

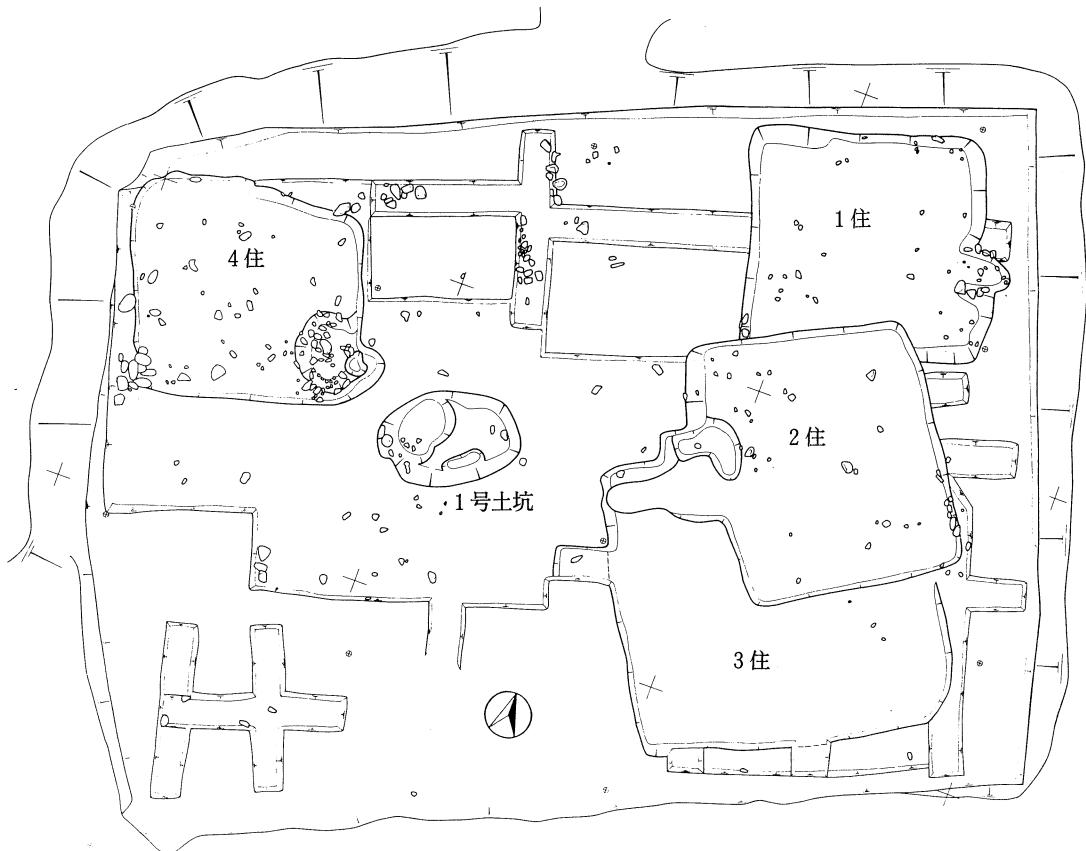
番号	遺跡名	時代区分	備考
①	坂井堂ノ前	弥生・古墳・奈良	
②	宮ノ前	縄文・弥生・奈良・平安	平成元年～平成2年 韮崎市遺跡調査会調査



第1図 坂井堂ノ前遺跡①と周辺の遺跡 (1/10,000)



第2図 遺跡調査区域図 (1/750)



第3図 遺跡全体平面図 (1/120)

番号	遺跡名	時代区分	備考
③	宮ノ前第2	奈良・平安・中世	平成2年度 垂崎市教育委員会調査
④	宮ノ前第3	奈良・平安	平成4年度 垂崎市遺跡調査会調査
⑤	宮ノ前第4	弥生・奈良・平安	平成6年度 垂崎市遺跡調査会調査
⑥	後田第2	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	平成7年度 垂崎市遺跡調査会調査
⑦	枇杷塚	古墳時代中期	平成7年度 垂崎市遺跡調査会調査
⑧	下横屋	弥生・平安	平成元年度 垂崎市教育委員会調査
⑨	後田	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	昭和63年度 垂崎市教育委員会調査
⑩	堂の前	弥生・奈良・平安	昭和61年度 垂崎市教育委員会調査

III 遺跡の地相概観

坂井堂ノ前遺跡は、塩川右岸氾濫原の微高地上に立地する。位置的には北下条集落の北側にあたり、堂の前遺跡から南へ200m程離れている。遺跡は文化ホール前通り線端にあり、東側には新興住宅地が形成されている。

V 遺構と遺物

発掘調査の結果発見された遺構は、狭い調査面積にもかかわらず、竪穴住居址が4軒、土坑1基となっている。(第3図参照)

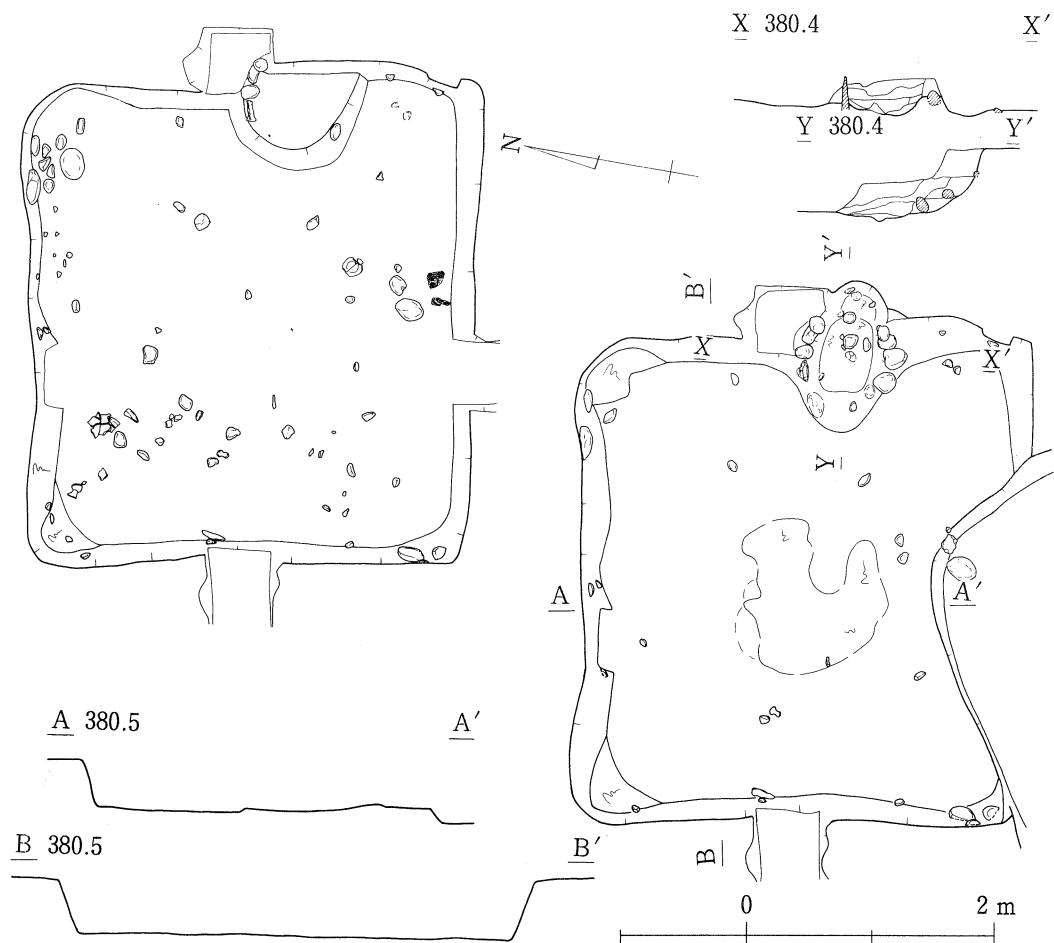
<1号住居址> (第4・5図)

[遺構]

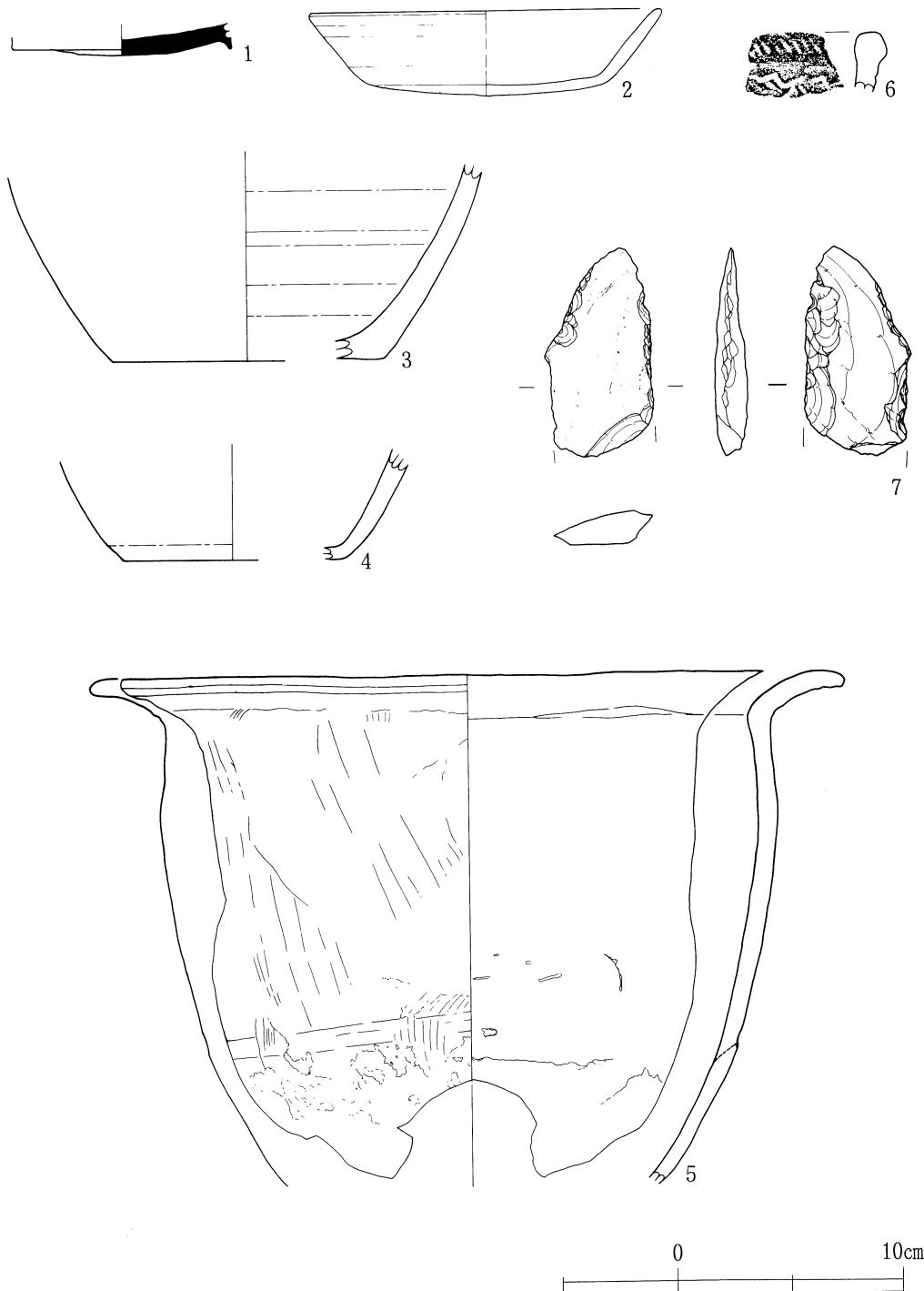
調査区域北東端に位置する。東西3.7m、南北3.5mの規模で、平面形はほぼ方形を呈する。南側壁は2号住居址と重複しており、やや不明瞭であった。壁はやや外傾しながら立ち上がる。発掘調査面からの深さは40cm前後と比較的深い竪穴となっている。カマドは東壁に作られ、袖の芯に石を用いてつくられており、1m×1.2m程の大きさがある。床面は中央部分がやや高い。柱穴・周溝は無い。

[遺物]

遺物の出土は少ない。奈良時代。



第4図 1号住居址平・断面図 (1/60)



第5図 1号住居址出土遺物 (1/3)

出土遺物一覧

(単位 cm)

番号	種類	器形	法量		胎 土	色調(内面 外顔)	整 形・特 徴・その他
			器高・口径・底径				
1	須恵器	壺	—, —, 9.4	砂粒を含む	灰オリーブ色 黄橙色	付高台 底部が高台より出ている	底部破片
2	土師器	壺	3.7, 15.3, 10.0	雲母・赤・白色粒子を含む	にぶい橙色 橙色	内外面一ロクロ整形の後撫で 底部回転ヘラ削り	口縁部一部欠損
3	土師器	甕	—, —, 11.9	赤・白色粒子を含む	にぶい橙色 一部黒変 淡橙色～にぶい橙色	内外面一横撫で	胴部～底部破片
4	土師器	甕	—, —, 9.6	雲母と白色粒子の目立つ砂粒を含む	にぶい黄橙色 にぶい橙色～灰褐色	内面一磨滅により不鮮明 外面一縱方向の撫で	
5	土師器	甕	—, 31.5, —	粗い赤色粒子と砂粒を含む	にぶい橙色	内面一横撫で、輪積み痕あり 外面一接合部分に凹みが横走する 口縁部横撫で、胴部縱方向の撫でと刷毛目が みられる、煤けている	口縁部～胴部破片
6	縄文土器	土器片	—, —, —	雲母と砂粒を含む	にぶい黄橙色	外面一口唇部に縄文らしい文様とその下部に 棒状工具による山形文が施される。	口縁部破片
7	石器		長 9.1, 巾 4.7, 厚 1.4			横型剥片	石材は泥質砂岩

<2号住居址> (第6・7・8・9・10図)

[遺構]

調査区域東側中央に位置する。規模は東西3.6m～3.8m、南北4.1m～4.3mで、平面形は長方形を呈する。北側は1号住居址と重複し、南半分は3号住居址を切って構築されており、発掘調査面では遺構の範囲が今一つ明瞭につかめず、壁の立ち上がりも本住居址の床面と他の住居址の床面との差異を確認してから把握した。発掘調査面からの深さは60cm前後を測り、深い竪穴となる。カマドは西壁に粘土によってつくられるが、北側に本来のカマドとは別に焼土が発見されたのでつくり変えがされたのかもしれない。煙道は長い。床面はほぼ平坦。柱穴・周溝は無い。

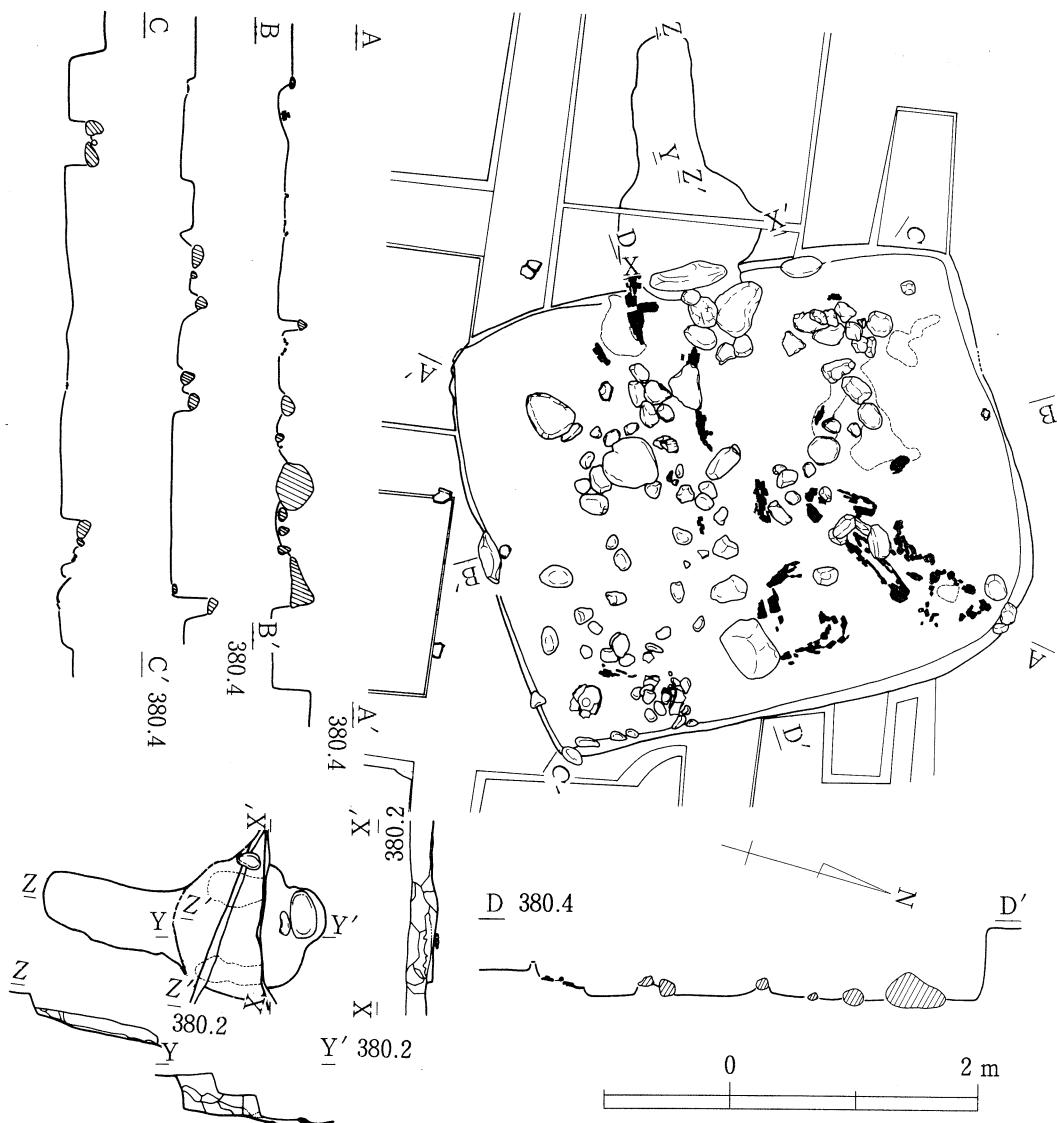
[遺物]

遺物の出土は比較的少なかった。古墳時代後期。

出土遺物一覧

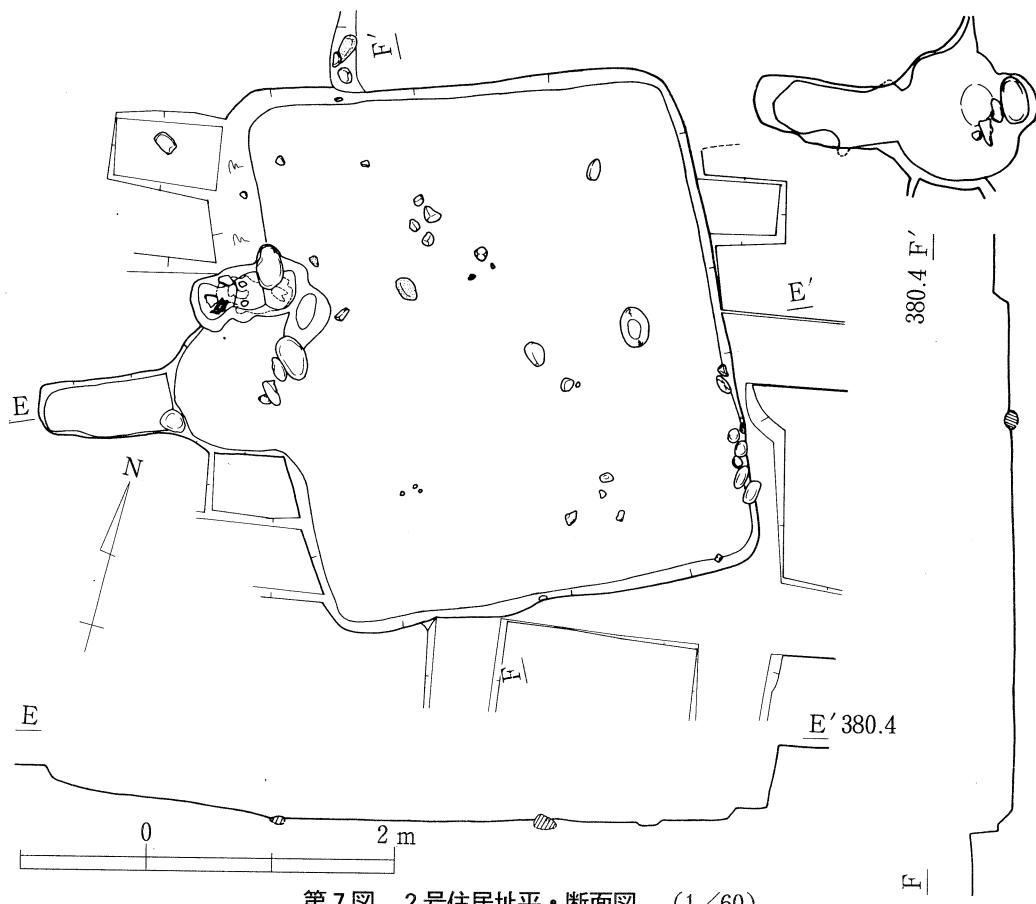
(単位 cm)

番号	種類	器形	法量		胎 土	色調(内面 外顔)	整 形・特 徴・その他
			器高・口径・底径				
1	須恵器	短頸壺	—, 7.1, —	黑色粒子を含む	灰白色 灰白色～灰オリーブ色	外面一肩部に2本の圈線を巡らし、頸部と肩部の間に凸帯が巡る	口縁部～体部破片
2	土師器	壺	4.0, 12.5, —	赤・白色粒子と少量の金雲母	橙色	内面一口縁部横撫で、みこみ部雜なつくりで 凸凹している 外面一雑な削りが見られる	4/5残
3	土師器	壺	—, 12.5, —	白・赤色粒子を含む	黒色	内外面ともに丁寧な磨きが施されている	破片
4	土師器	壺	3.4, 13.2, 3.0	金雲母・赤色粒子を含む	褐灰色 灰褐～黒褐色	内面一磨かれている(暗文) 外面一ヘラ削り後、磨かれている	破片
5	土師器	鉢	—, 18.0, 7.2	小礫が多量に混入した粗い土	黒褐色 褐色	内面一撫で 外面一縦方向ヘラ削り	口縁部、底部破片
6	土師器	鉢	—, 14.2, —	白色粒子・雲母を含む	にぶい褐色 橙色～にぶい橙色	口縁部一横撫で 内面一ロクロ整形 外面一頸部横撫で 体部縦撫で	2/3残
7	土師器	甕	10.0, 15.6, 6.0	砂粒を含む	にぶい橙色 一部黒変 にぶい褐色	口縁部一剥落により不鮮明 内面一ヘラ撫でみがき、煤けて黒変 外面一上部一部煤けている 底部一穿孔(径2.8)	1/2残
8	土師器	甕	31.0, 19.8, 6.3	粗めの砂粒を含む	暗褐色～黒色 にぶい赤褐色～暗褐色	内面一横刷毛目 底部一木葉痕 外面一縦刷毛目	1/2残
9	土師器	甕	—, —, 5.6	赤色粒子を含む	暗赤褐色	内面一刷毛目 外面一縦方向ヘラ削り	底部破片

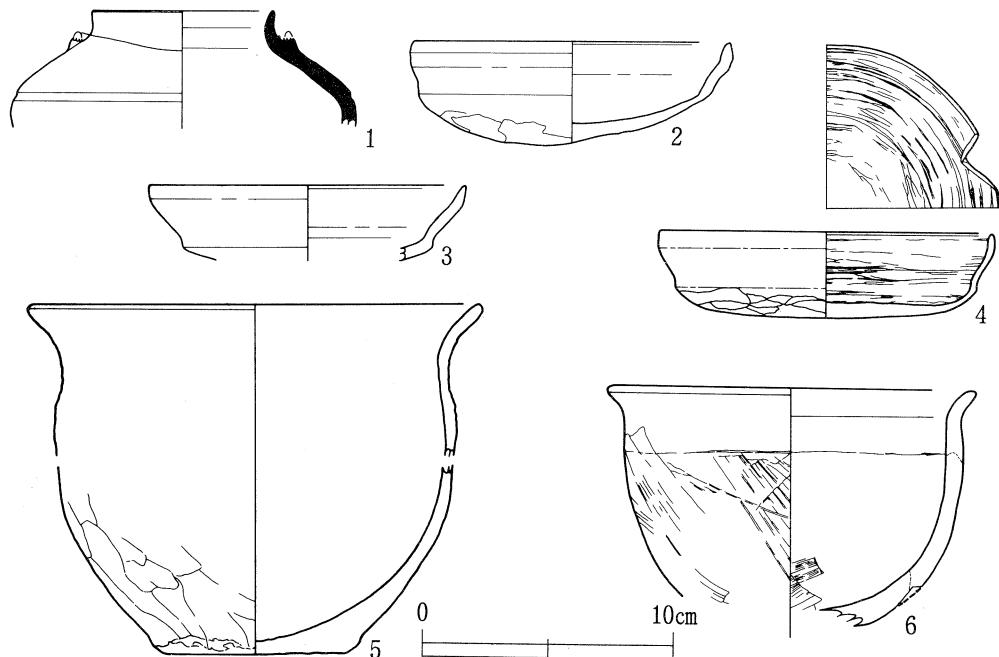


第6図 2号住居址遺物出土状態・カマド平・断面図 (1/60)

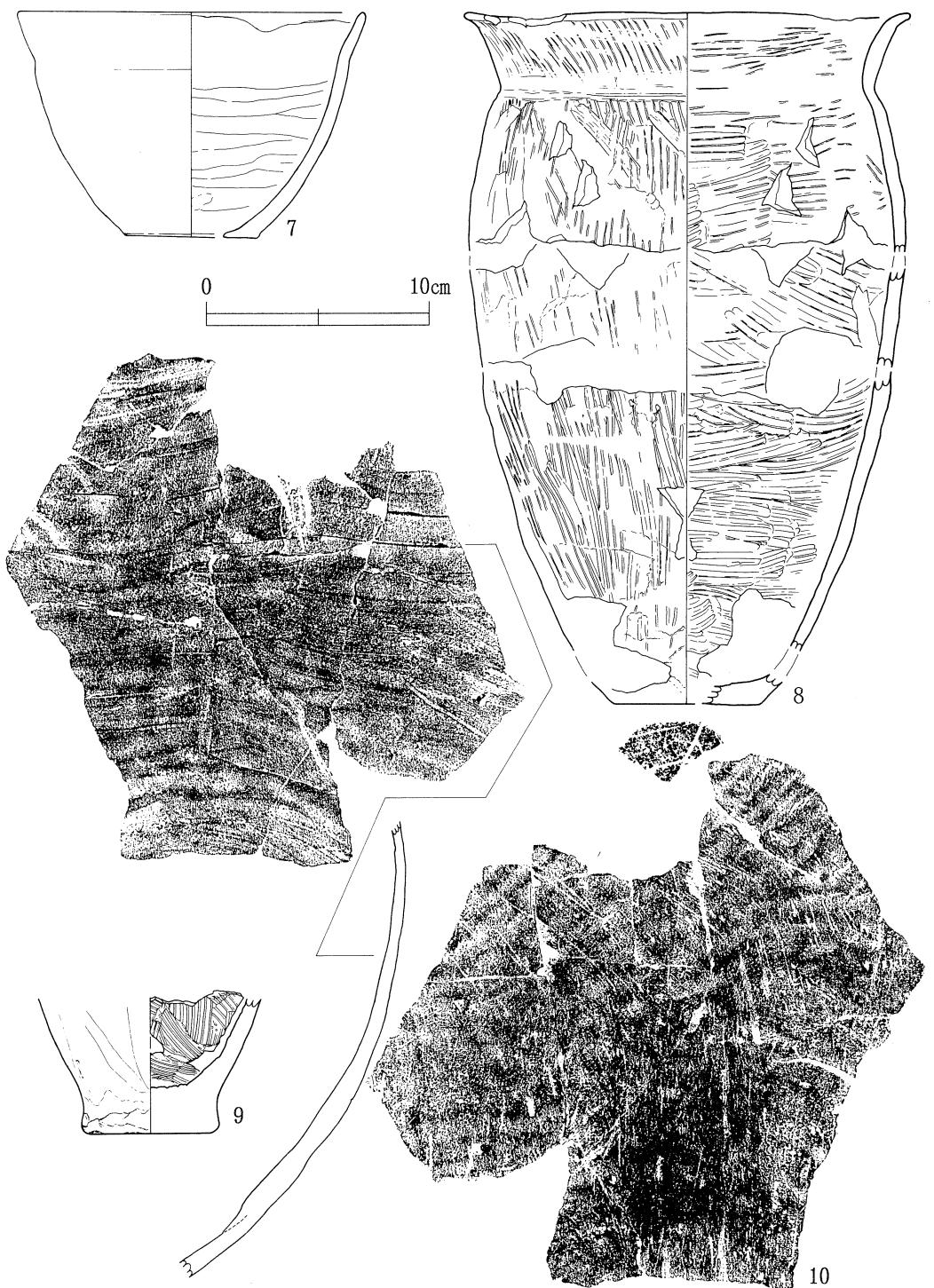
番号	種類	器形	法量		胎 土	色調(内面 外顔)	整形・特徴・その他
			器高・口径	底径			
10	土師器	甕	-,-	-	石英、白色粒子を多く、赤色粒子を少量含む	橙色 橙色～にぶい橙色 一部黒変	内面一横撫で 外面一縦、斜位方向へラ削り 胴部破片
11	土師器	壺	-,-	8.0	金雲母と砂粒を含む	明赤褐色 にぶい橙色	内面一横刷毛目 外面一ヘラ磨き、胴下部黒変 底部一木葉痕 2/5残
12	土師器	小形壺	-,-	-	赤色粒子を含む	褐色 黒褐色	ロクロ成形 胴肩部破片
13	土師器	壺	-,	12.8,	白色が目立つ砂粒を含む	黒褐色 明赤褐色	内面一横刷毛撫で 外面一斜位の刷毛目 破片
14	土師器	壺	-,	15.2,	赤・白色粒子を含む	にぶい褐色 橙色	内面一刷毛撫で 外面一雑な刷毛整形 胴部黒変 1/4残
15	石器	紡錘車					
16	石器	石匙	長 7.3,	巾 5.3,	厚 1.3		擦痕、使用痕が見られる 石材は石灰質粘板岩
17	弥生土器	甕	-,-	-	白色粒子と雲母を含む	橙色 にぶい橙色	内外面一刷毛目 口唇部に刻目が見られる 口縁部破片



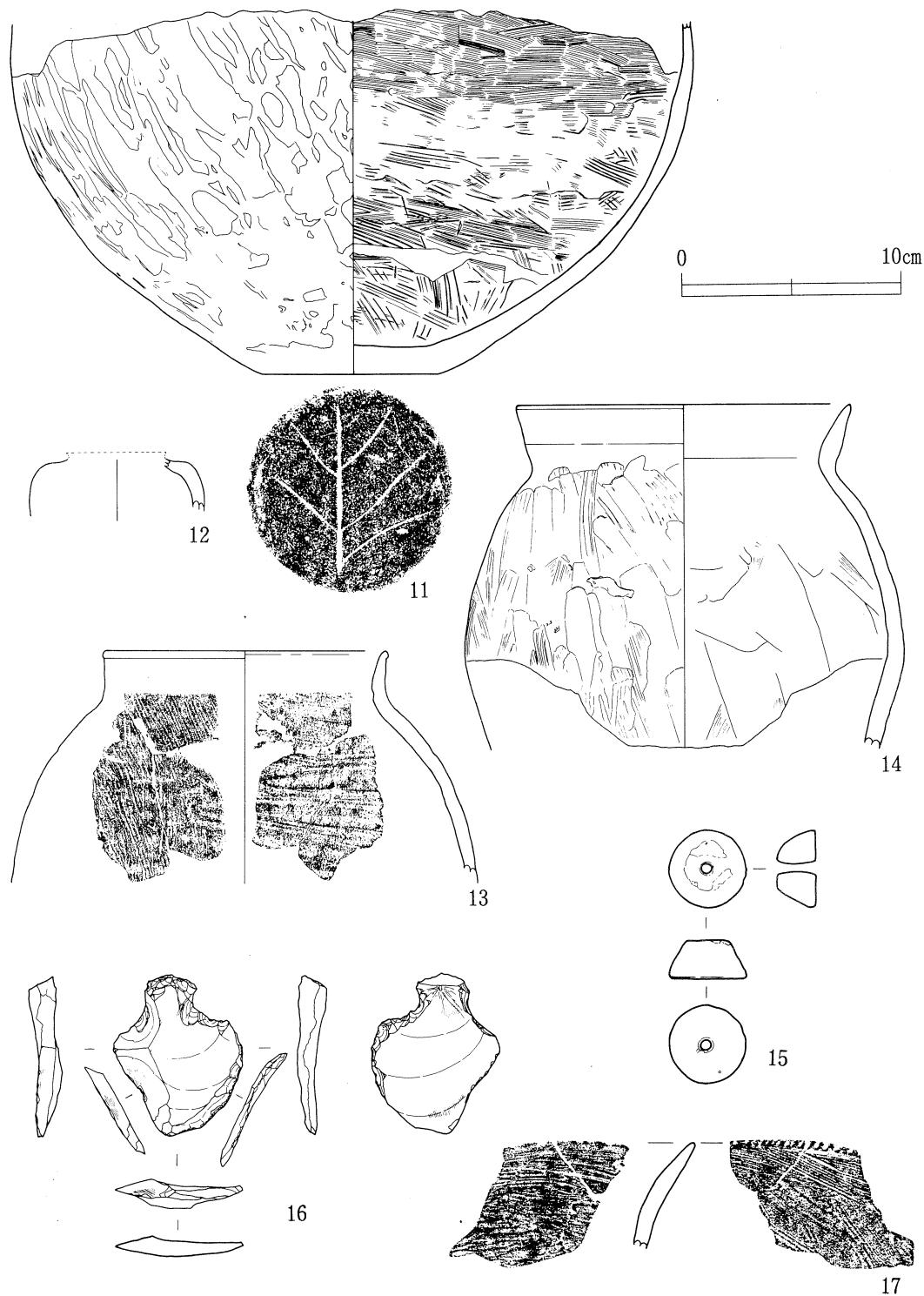
第7図 2号居住址平・断面図 (1/60)



第8図 2号居住址出土遺物 (1/3)



第9図 2号住居址出土遺物 (1/3)



第10図 2号住居址出土遺物 (1/3)

<3号住居址> (第11・12・13・14図)

[遺構]

調査区域南東側に位置する。北東部分は2号住居址に切られている。規模は東西約5.1m、南北約4.7m。北東側壁が遺存していないが平面形は長方形を呈すると思われ、調査内では比較的大型の竪穴となっている。壁は外傾しながら立ち上がり、確認面からの深さは50cm前後。カマドは検出されなかった。床面はほぼ平坦で、柱穴・周溝は無い。

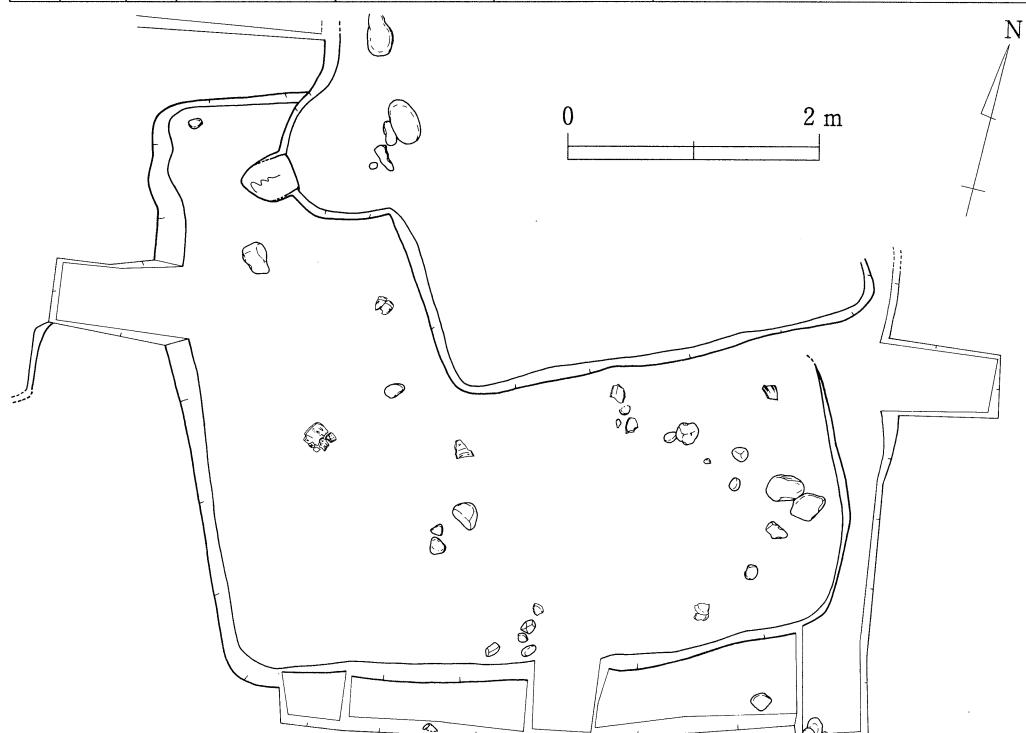
[遺物]

遺構の残存状態に比して良好であった。古墳時代後期。

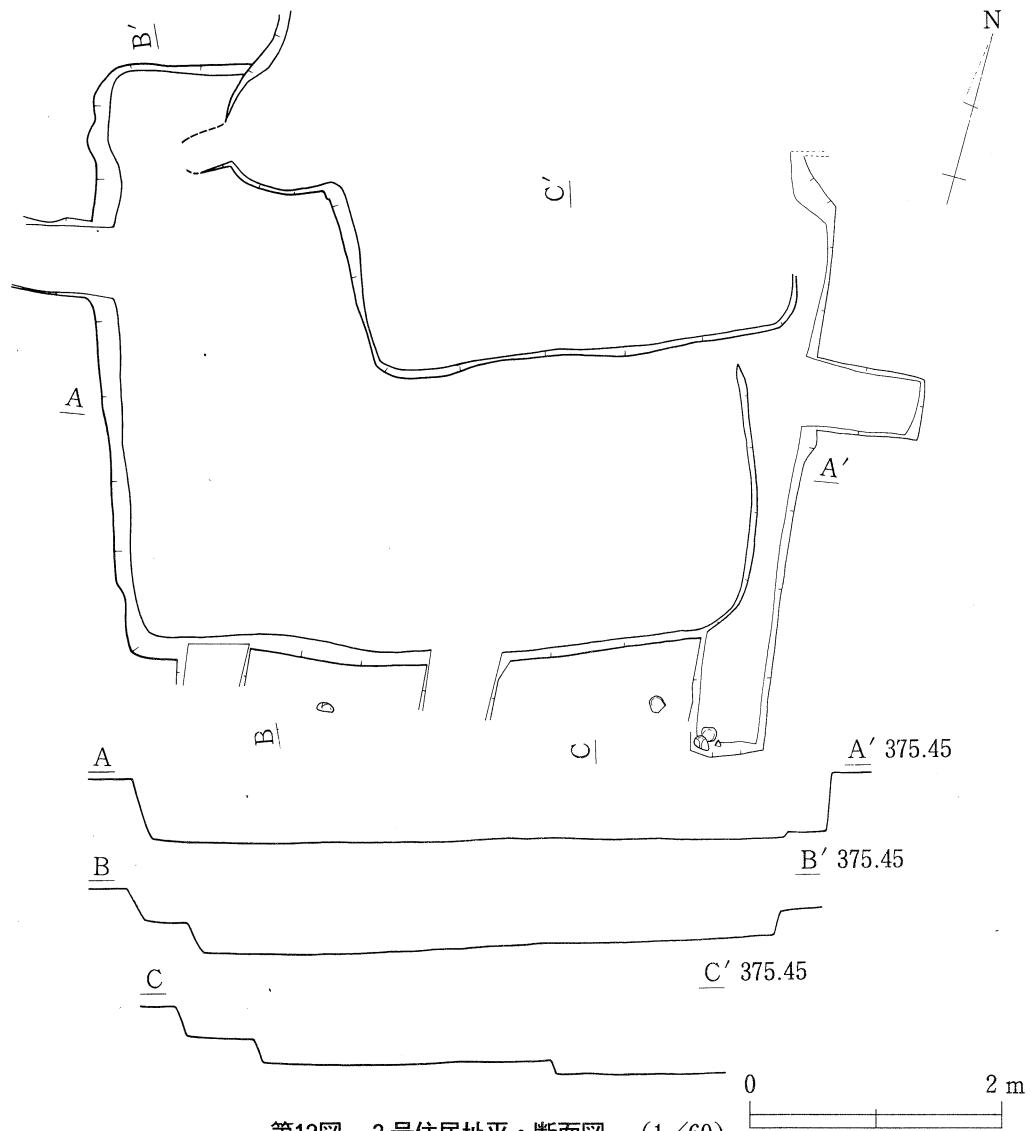
出土遺物一覧

(単位 cm)

番号	種類	器形	法量		胎土	色調(内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高	口径・底径			
1	土師器	高壺	-	-	10.7	粗い赤色粒子と砂粒を含む	灰黄褐色～黒褐色 内面一横撫で 外面一ヘラ削り 脚下部破片
2	土師器	壺	3.9, 13.0, 4.0	細かい金雲母を少量と白色粒子を含む	黒色		内面一ていねいな磨きの後暗文が不規則に入る 外面一口縁部磨き、体部から底部削りの後暗文 2/3残
3	土師器	壺	3.6, 14.0, 2.0	赤色粒子を含む	赤褐色 暗赤褐色		内外面一磨き、赤彩色されている 底部一部黒変 1/3残
4	土師器	壺	4.4, 12.4, -	細かい金雲母、赤色粒子を含む	灰褐色～褐灰色		内面一磨かれているが、磨滅により不鮮明 外面一口縁部横撫で底部ヘラ削り 2/5残
5	土師器	壺	-, 12.8, -	赤色粒子を含む	にぶい赤褐色		内面一磨きが施されているようだが不鮮明 外面一上半部 横撫で 下半部 回転ヘラ削りと磨きあり 口縁部破片
6	土師器	壺	-, 11.4, -	白色粒子を含む	にぶい赤褐色 暗赤褐色		内面一磨き 外面一ヘラ削りと磨き 口縁部破片

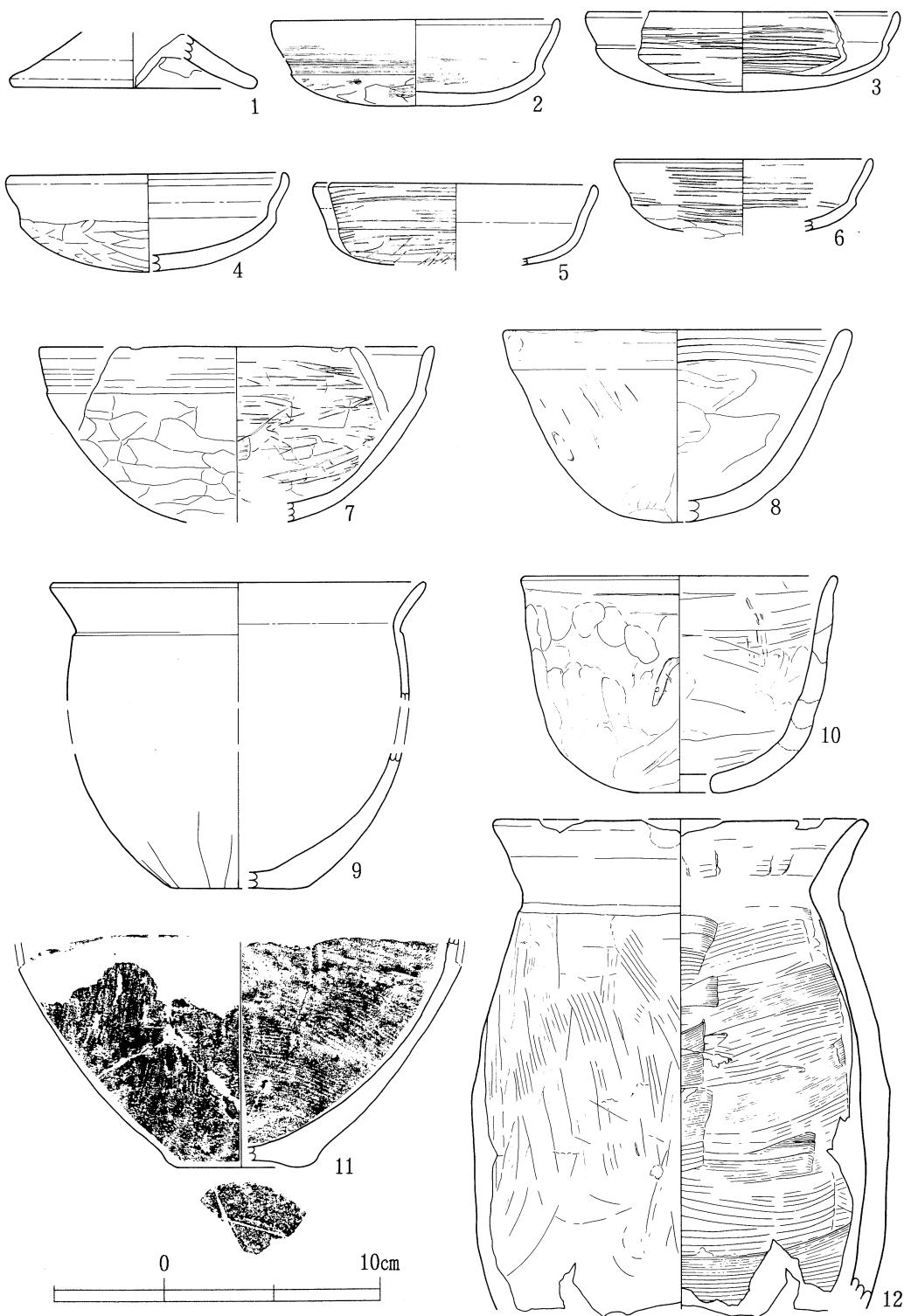


第11図 3号住居址遺物出土状態 (1/60)

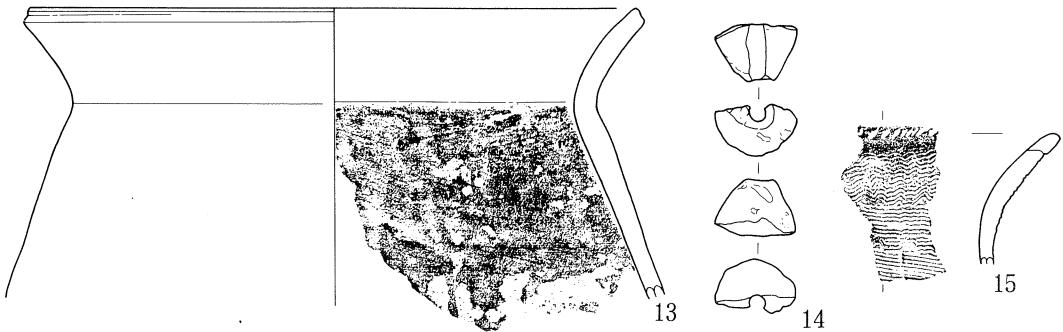


第12図 3号住居址平・断面図 (1/60)

番号	種類	器形	法量		胎土	色調(内面)	整形・特徴・その他
			器高・口径	底径			
7	土師器	鉢	-	17.8	-	細かい金雲母と白色粒子、粗い赤色粒子を含む	黒色 橙色～にぶい赤褐色 内面～ていねいな磨きの後雑な暗文が入る 刷毛目あるいは撫でもわざかに見られる 外面一体部削り口縁横撫で 1/5残
8	土師器	鉢	8.7, 15.8,	6.0	白・黒色粒子を含む	にぶい橙色	口縁部横撫で、器面は撫でられるが刷毛目痕も見られる 底部削り 内外部煤けている 1/3残
9	土師器	鉢	-	16.8, 6.0	赤色粒子を含む	にぶい橙色	内外面一赤彩色されていたようだが、かなり磨滅している 口縁部破片、底部破片
10	土師器	甌	9.8, 14.4,	4.0	赤色粒子を含む	にぶい橙色	口縁部横撫で 外面一体部上半撫で痕があり 下半はハラ削りがみられる 底部穿孔(径 2.8) 1/2残
11	土師器	壺	-	-	5.8	粗い砂粒を含む	黒褐色 暗褐色 内面-横刷毛目 底部-木葉痕 外面-粗い刷毛調整 胴部～底部破片
12	土師器	甕	-	16.6	-	砂粒を含む	内面-横刷毛目 外面-口縁部は横撫で、胴部は綫刷毛目、煤けている 口縁部～胴部破片 1/2残



第13図 3号住居址出土遺物 (1/3)



第14図 3号住居址出土遺物 (1/3)

番号	種類	器形	法量		胎土	色調(内面 外顔)	整形・特徴・その他
			器高	口径・底径			
13	土師器	甕	—	24.0	—	各色砂粒を含む	にぶい赤褐色 にぶい橙色
14	土製品	おもり				粗い砂粒を含む	にぶい橙色 (外面一部赤褐色)
15	弥生土器	甕	—	—	—	砂粒を含む	にぶい黄橙色 褐灰色

<4号住居址> (第15・16・17・18・19・20・21・22図)

[遺構]

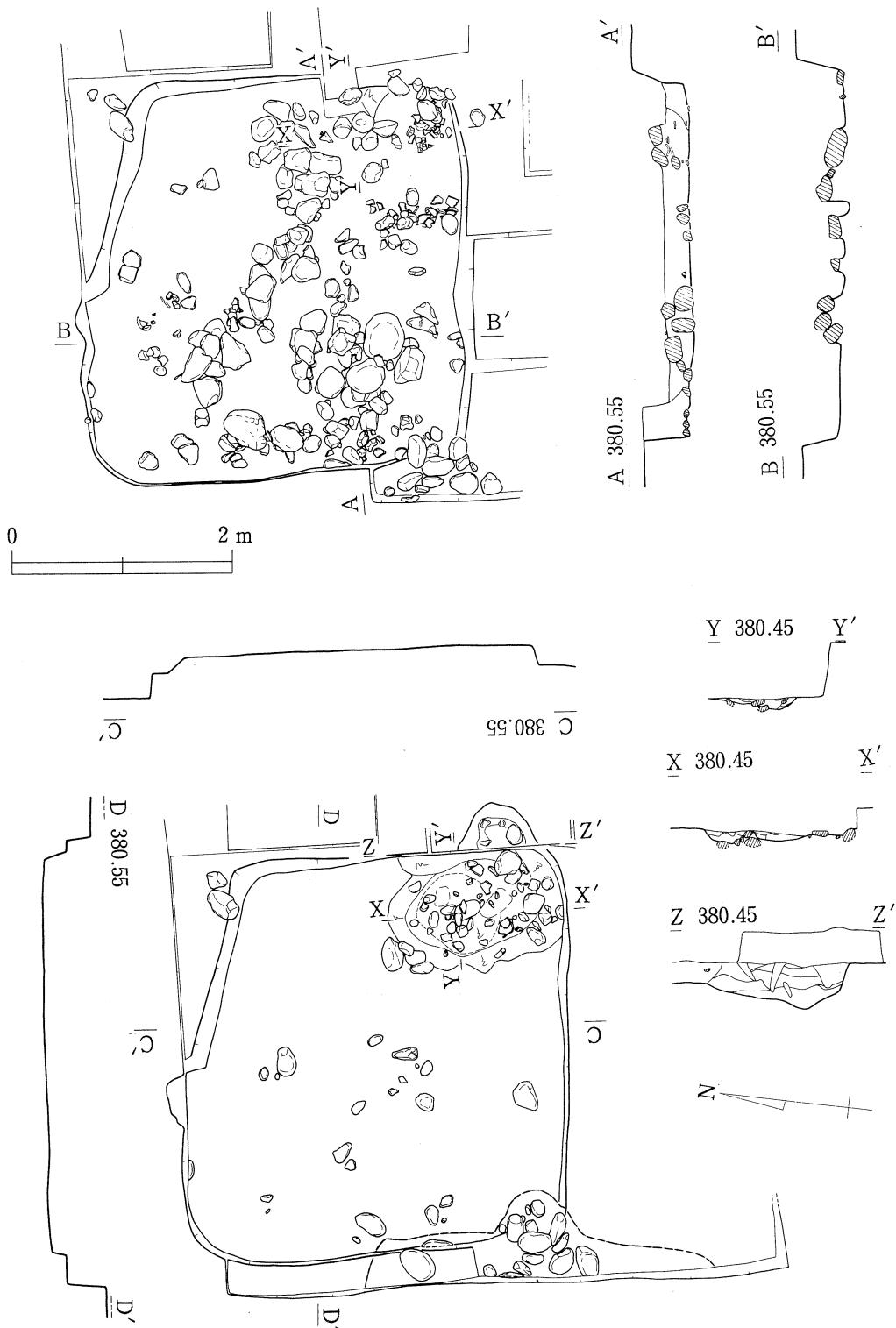
調査区域北西端に位置する。規模は、北辺約3.5m、南辺約3.3m、東辺約2.9m、西辺約3.3mで不整な方形の平面形を呈する。壁はやや外傾しながら立ち上がり、確認面からの深さは20~40cm前後。床面はほぼ平坦。柱穴・周溝は無い。カマドは東壁南半分に、石と粘土を用いて構築してあったと思われるが、遺存状態は良好ではなかった。西壁南半分から5号住居址のカマドが検出されており、この部分で5号住居址に切られている。

[遺物]

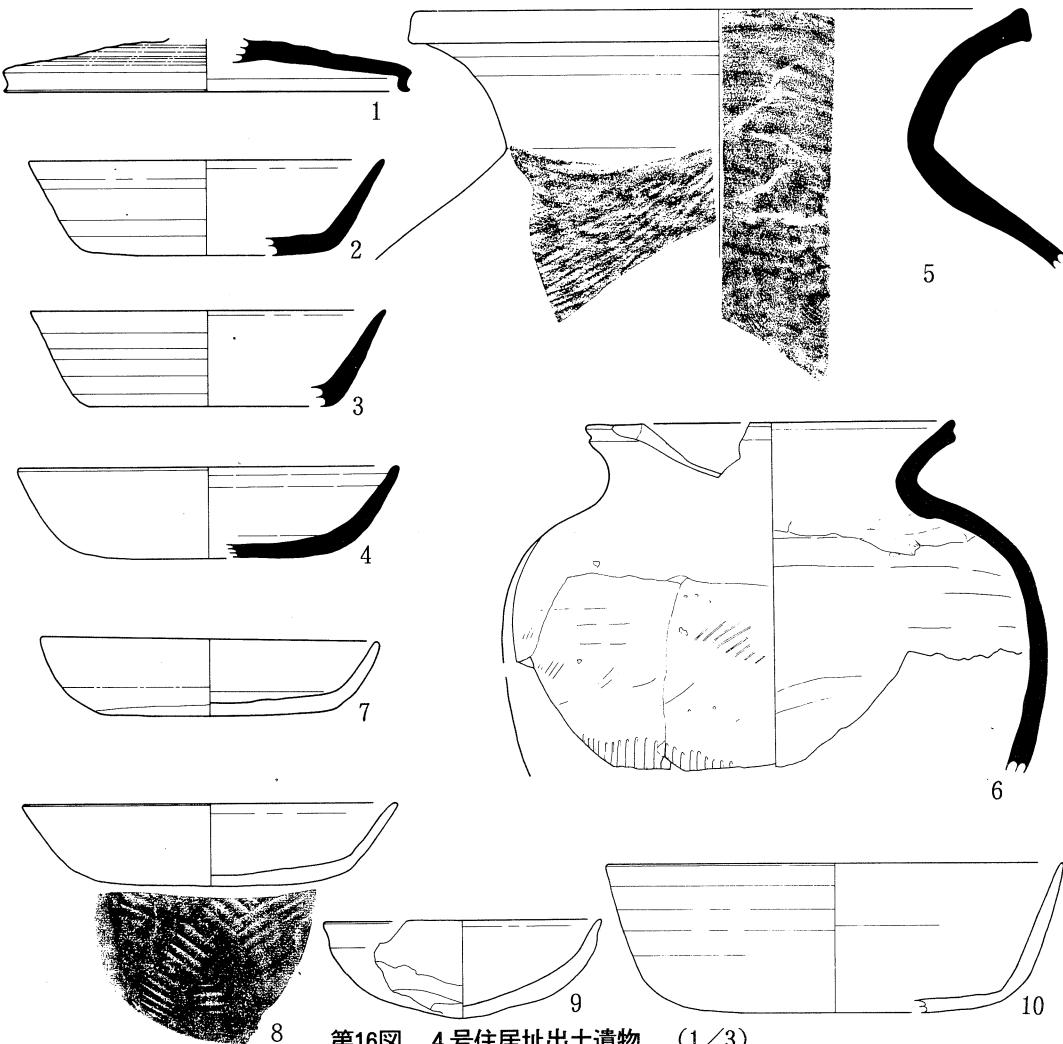
遺物は、カマド周辺と北西側に大まかな分布があり、出土は多量である。石が大量に入り込んでいた。時期は奈良時代。

出土遺物一覧 (単位 cm)

番号	種類	器形	法量		胎土	色調(内面 外顔)	整形・特徴・その他
			器高	口径・底径			
1	須恵器	蓋	—	15.9	—	粗い白色粒子が目立つ、赤・黒色粒子も少量含む	にぶい橙色～灰褐色 灰褐色
2	須恵器	坏	3.8	14.0	5.8	白・黒色粒子を含む	灰白色 灰黄色
3	須恵器	坏	3.9	14.0	9.4	白・黒色粒子を含む	灰オリーブ色～オリーブ黑色 灰黃褐色
4	須恵器	坏	3.7	15.1	9.7	粗い砂粒を含む	灰白色
5	須恵器	甕	—	24.0	—	白色粒子を含む	灰色 灰オリーブ色
6	須恵器	壺	—	14.5	—	黒・白色粒子を含む	灰白色～黄灰色



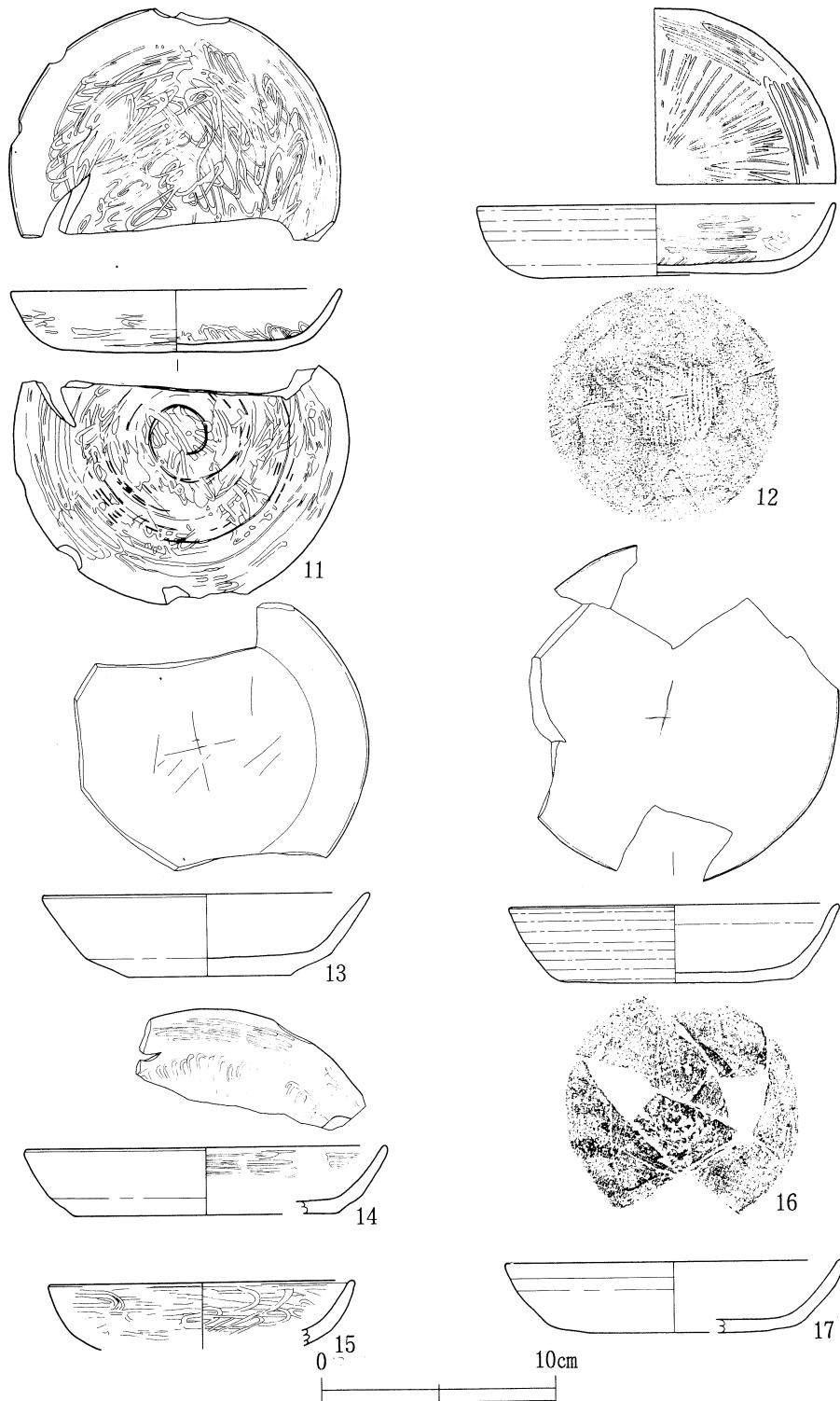
第15図 4号住居址平・断面図 (1/60)



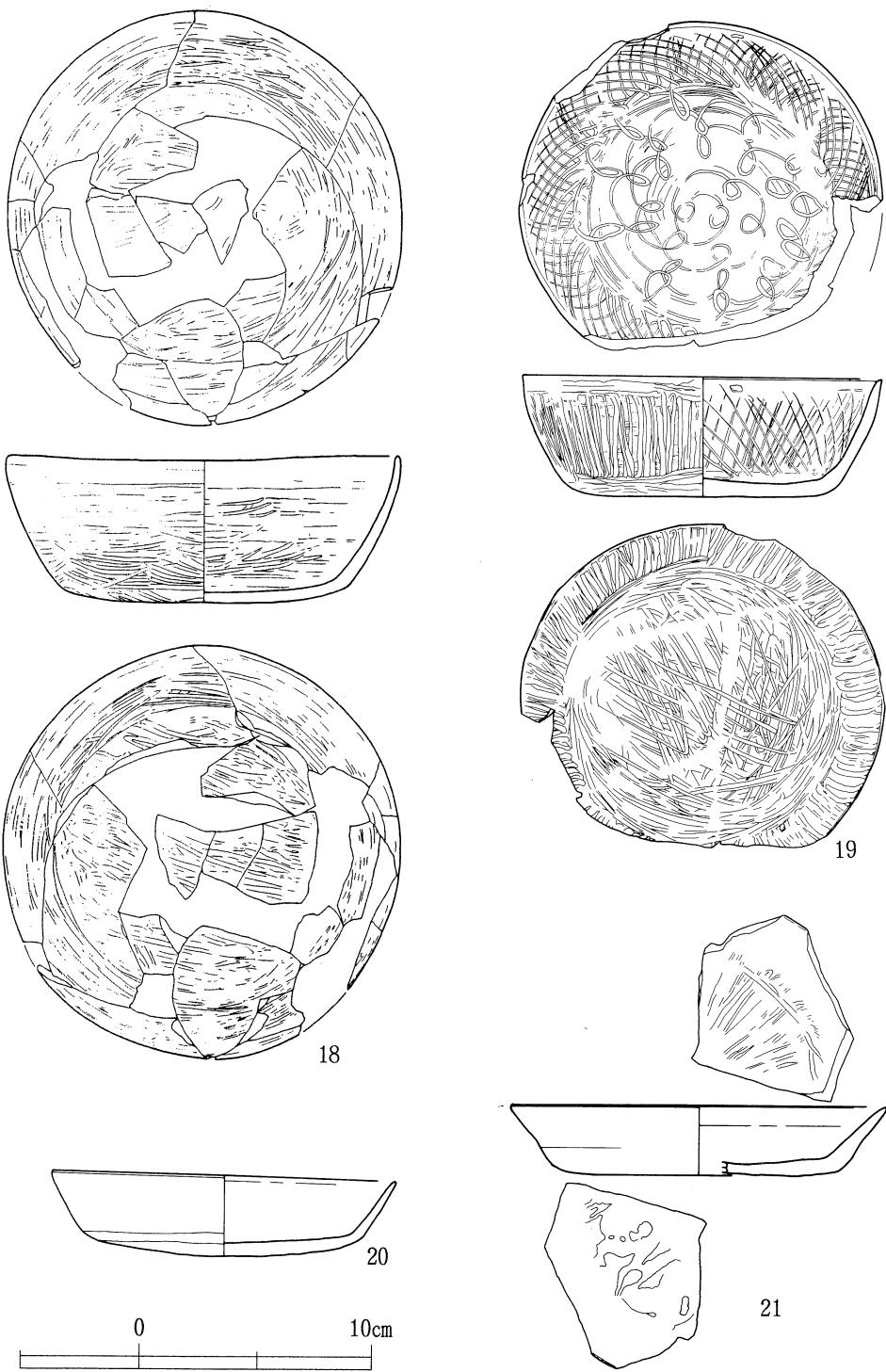
第16図 4号住居址出土遺物 (1/3)

番号	種類	器形	法量		胎 土	色調(内面 外面)	整 形・特 徴・その他の
			器高・口径・底径				
7	土師器	壺	3.1, 13.3,	9.4	砂粒を含む	にぶい橙色	ロクロによる整形 底部ヘラ削り 口縁部一部欠損
8	土師器	壺	3.3, 14.8,	6.5	赤・黒色粒子を含む	にぶい橙色 橙色	内外ともに撫で 底部ヘラ削り 1/4残
9	土師器	壺	3.9, 10.9,	—	砂粒を含む	にぶい黄橙色 明黄色	外面一粗いヘラ削り 1/4残
10	土師器	壺	5.9, 18.0,	7.8	赤・黒色粒子を含む	浅黄橙色	内面一暗文がみられるが不鮮明 1/5残
11	土師器	壺	2.6, 14.0,	6.0	赤色粒子を含む	橙色	内外暗文が施されている 2/3残
12	土師器	壺	3.0, 15.2,	10.0	赤色粒子を含む	にぶい橙色 にぶい橙色～橙色	内面一体部、みこみ部暗文 外面一静止糸切り後外周ヘラ削り 口縁部欠損
13	土師器	壺	3.5, 14.0,	6.4	赤・白色粒子を含む	橙色	内面一ロクロによる撫で 3/4残
14	土師器	壺	2.9, 15.6,	10.8	白・黒色粒子を含む	にぶい橙色	内面一体部横方向の暗文、みこみ部中心に向かって暗文がみられる 外面一体部下半ヘラ削り 破片
15	土師器	壺	—, 13.0,	—	白色粒子を含む	明赤褐色 橙色、赤褐色	内外面一丁寧な磨きに暗文が入るが不鮮明 口縁部破片
16	土師器	壺	3.4, 14.0,	6.0	赤色粒子を含む	橙色 淡黄橙色～にぶい橙色	内面一みこみ部線刻 底部一ヘラ削り後線刻 2/3残
17	土師器	壺	3.0, 14.3,	7.6	赤・白色粒子を含む	にぶい橙色	内面一横撫で 外面一横撫で、底部回転ヘラ削り 1/3残
18	土師器	壺	6.0, 17.5,	12.4	細かい赤色粒子を含む	橙色	内外面一ていねいな磨き 4/5残

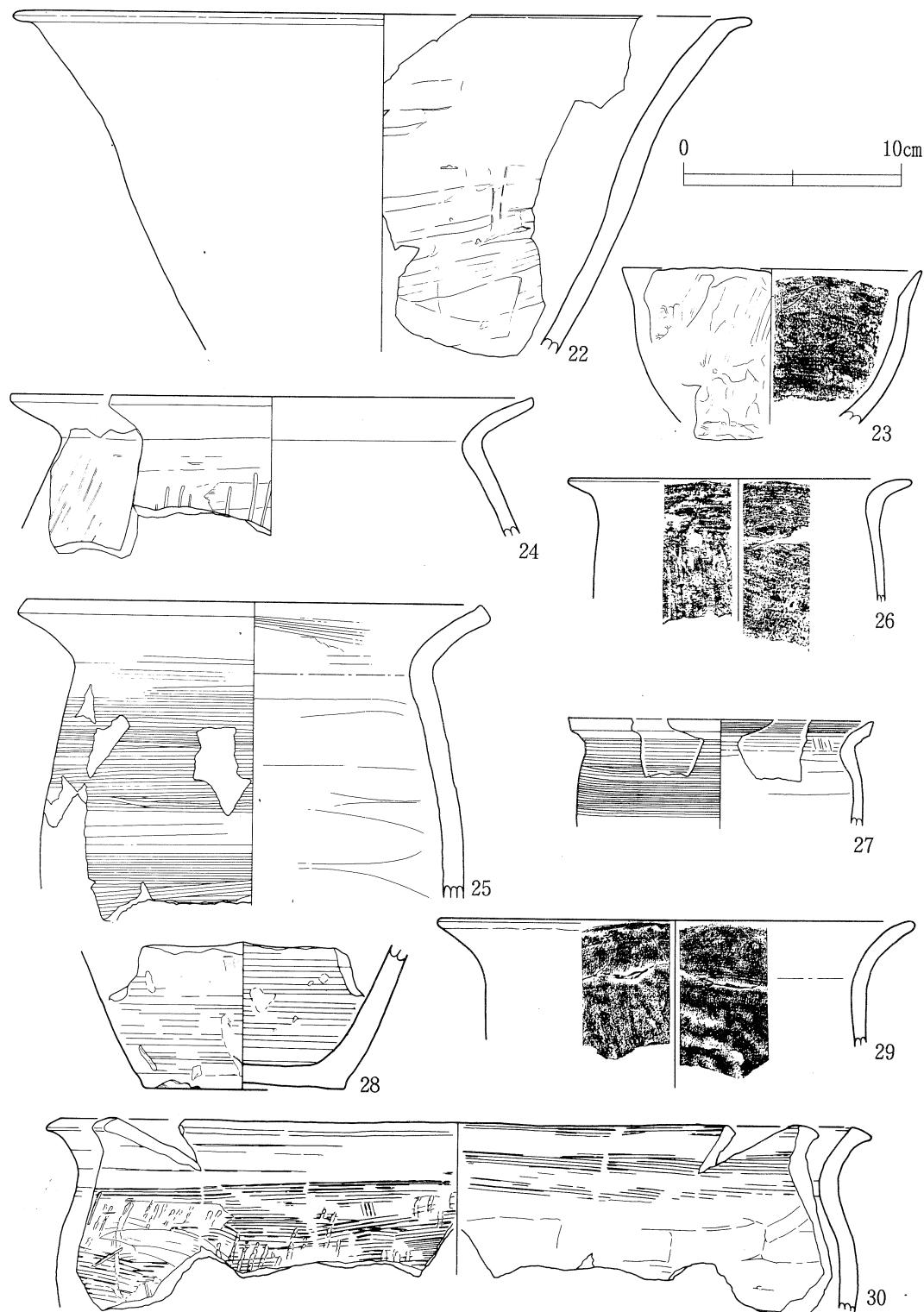
番号	種類	器形	法量		胎 土	色調(内面)	整 形・特 徴・その他の
			器高・口径・底径				
19	土師器	壺	5.1, 15.2, 9.5	細かい金雲母、赤・白色粒子を少量含む	橙色 口縁一部黒変		撫で整形の後、内外丁寧な暗文が施される 体部1/3欠損
20	土師器	壺	3.4, 14.5, 10.2	砂粒を含む	橙色 黄橙色	内面一磨かれているが、磨滅により不鮮明 外面一底部付近へラ削り 1/2残	
21	土師器	皿	2.9, 15.8, 8.6	赤色粒子を含む	黄橙色 橙色	内面一みこみ部暗文 外面一底部へラ磨き	1/5残
22	土師器	鉢	—, 33.3, —	砂粒を含む	灰黄褐色 褐灰色	内面一横刷毛目 外面一縦横刷毛目	口縁部～胴部破片
23	土師器	鉢	—, 13.6, —	砂粒を含む	橙色～にぶい赤褐色	内面一横方向の刷毛目痕がみられる 外面一口縁部横撫で、器面は磨滅により不鮮明、雑な作り	破片
24	土師器	甕	—, 24.0, —	赤・白・黒色粒子を含む	にぶい橙色～橙色	内面一横撫で 外面一胴部は叩きじめの後、横撫で 口縁部～胴上部破片	
25	土師器	甕	—, 21.0, —	砂粒を含む	にぶい赤褐色	内面一口縁部はかすかなカキ目痕、頸部は斜め方向撫で、胴部は横方向撫で 外面一カキ目 口縁部～胴部破片	
26	土師器	小型甕	—, 15.6, —	砂粒を含む	にぶい褐色	内面一横方向削り風撫で 外面一口縁部は横撫で、胴部は縦方向削り風撫で	口縁部破片
27	土師器	小型甕	—, 14.0, —	白・赤色粒子を含む	橙色	内面一口縁部カキ目 外面一胴部カキ目	口縁部破片
28	土師器	甕	—, —, 9.2	砂粒を含む	橙色	内外面一カキ目 内面一みこみ部撫で	胴下部～底部破片
29	土師器	甕	—, 21.5, —	白色粒子を含む	明赤褐色	内面一口縁部横撫で 外面一口縁部横撫で、胴部縦方向撫で	口縁部破片
30	土師器	甕	—, 36.4, —	金雲母、白色粒子の目立つ砂粒を含む	赤褐色～にぶい橙色 橙色～にぶい赤褐色	内面一口縁部カキ目(刷毛目か?)、胴部横撫で 外面一口縁部横撫で、胴部叩きの上にカキ目(刷毛目か?)	口縁～胴部破片
31	土師器	甕	—, 26.0, —	金雲母、砂粒を含む	にぶい橙色～にぶい褐色 橙色～にぶい橙色	口縁部内外共に横撫で 内面一横斜方向の刷毛目の上に雑な撫でが施される、輪積み痕がみられる 外面一縦方向の刷毛整形	全体雑整形、胴部がうすく煤けている 1/5残
32	土師器	甕	—, —, —	砂粒を多く含む	黄橙色 橙色～褐色	内面一横撫で 外面一叩き目の後縦方向刷毛目、さらに横方向刷毛目が施される	胴部破片
33	土師器	甕	—, 32.2, —	雲母、白色の目立つ粗めの砂粒を含む	橙色	内面一口縁カキ目、胴部横撫で 外面一口縁横撫で、胴部カキ目 一部黒変	口縁～胴上部破片
34	土師器	甕	—, 23.7, —	砂粒を多く含む	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色～橙色	内面一横刷毛目(カキ目?) 外面一口縁横撫で、胴部縦・横刷毛目(カキ目?)が施されている 内外共に磨滅によりザラついている	口縁～胴上部破片
35	土師器	甕	—, 30.2, —	砂粒を含む	にぶい黄橙色	内面一横撫で 外面一口縁横撫で、胴部カキ目	口縁～胴部破片
36	土師器	甕	35.0, 25.8, 9.2	白色砂粒を含む	赤褐色 にぶい赤褐色～暗赤褐色	内面一横撫で 外面一叩き目を施した後、横方向の撫でで器面を調整している	2/3残
37	土師器	小型甕	—, 14.0, —	白色砂粒を含む	赤褐色	内面一口縁横刷毛目(カキ目?), 胴部撫で 外面一横刷毛目(カキ目?)	口縁～胴部破片
38	土師器	甕	—, —, 8.2	砂粒を含む	にぶい赤褐色	外面一カキ目が施される	胴下部～底部破片
39	土師器	小型甕	—, —, 9.0	砂粒を含む	赤褐色	内面一撫で 外面一カキ目	胴部～底部破片
40	土師器	甕	—, —, 9.2	赤・白色粒子を含む	橙色～にぶい橙色 にぶい赤褐色	内面一撫で、みこみ部へラ削り 外面一叩き目、底部木葉痕	底部破片
41	土師器	甕	—, —, 8.9	粗い赤色粒子が目立つ砂粒を含む	にぶい赤褐色 にぶい橙色	内面一磨滅により不鮮明 外面一カキ目、煤付着	底部へラ削り 胴下部～底部破片
42	土師器	小壺	—, 8.8, —	赤・白・黒色粒子を含む	橙色 橙色～にぶい橙色	ロクロによる整形 外面磨かれている	口縁部～肩部破片
43	土製品	手捏ね	—, —, 3.1	細かい砂粒を含む	にぶい黄橙色 にぶい橙色	内面一撫で	胴下部～底部破片
44	鉄器	鉄鎌					
45	鉄器	刀子					
46	鉄器	釘?					



第17図 4号住居址出土遺物 (1/3)



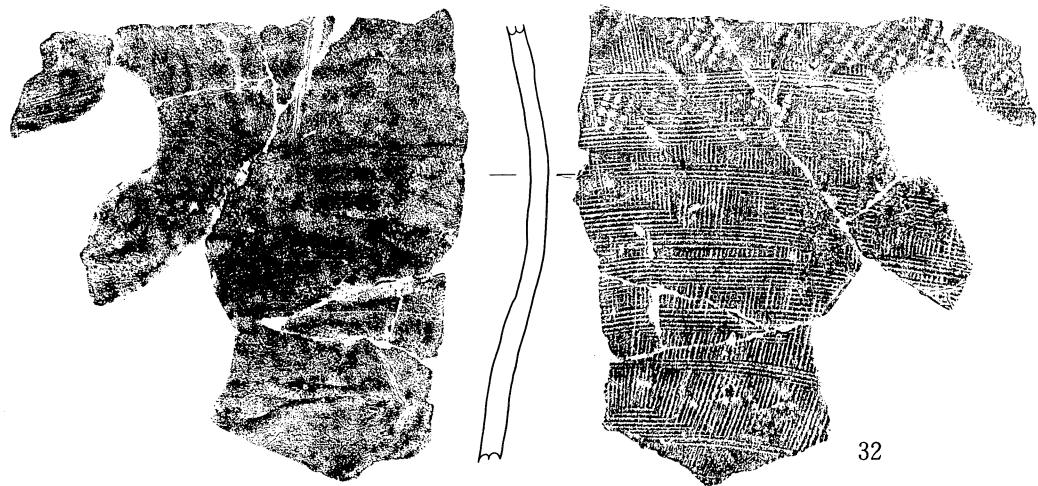
第18図 4号住居址出土遺物 (1/3)



第19図 4号住居址出土遺物 (1/3)

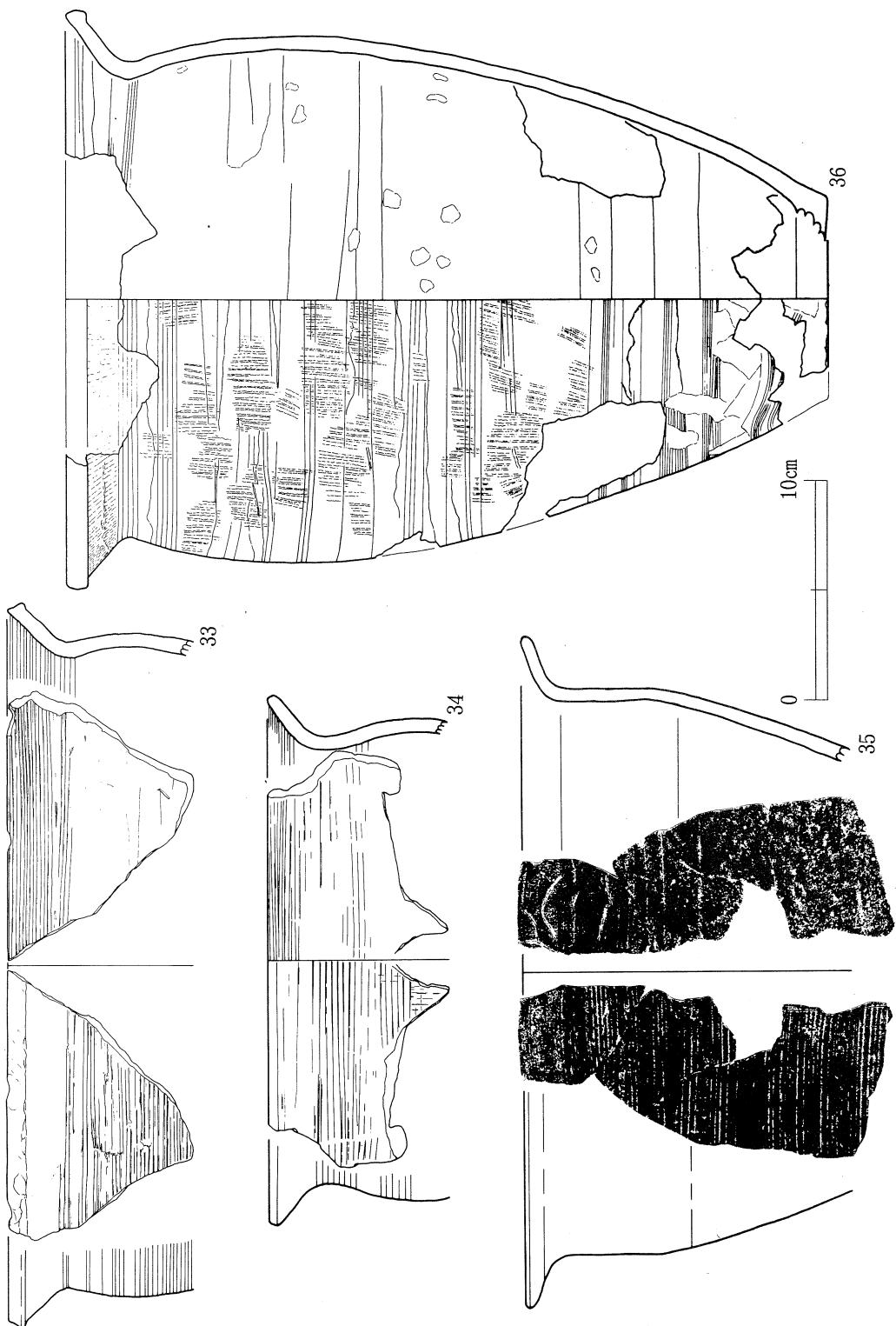


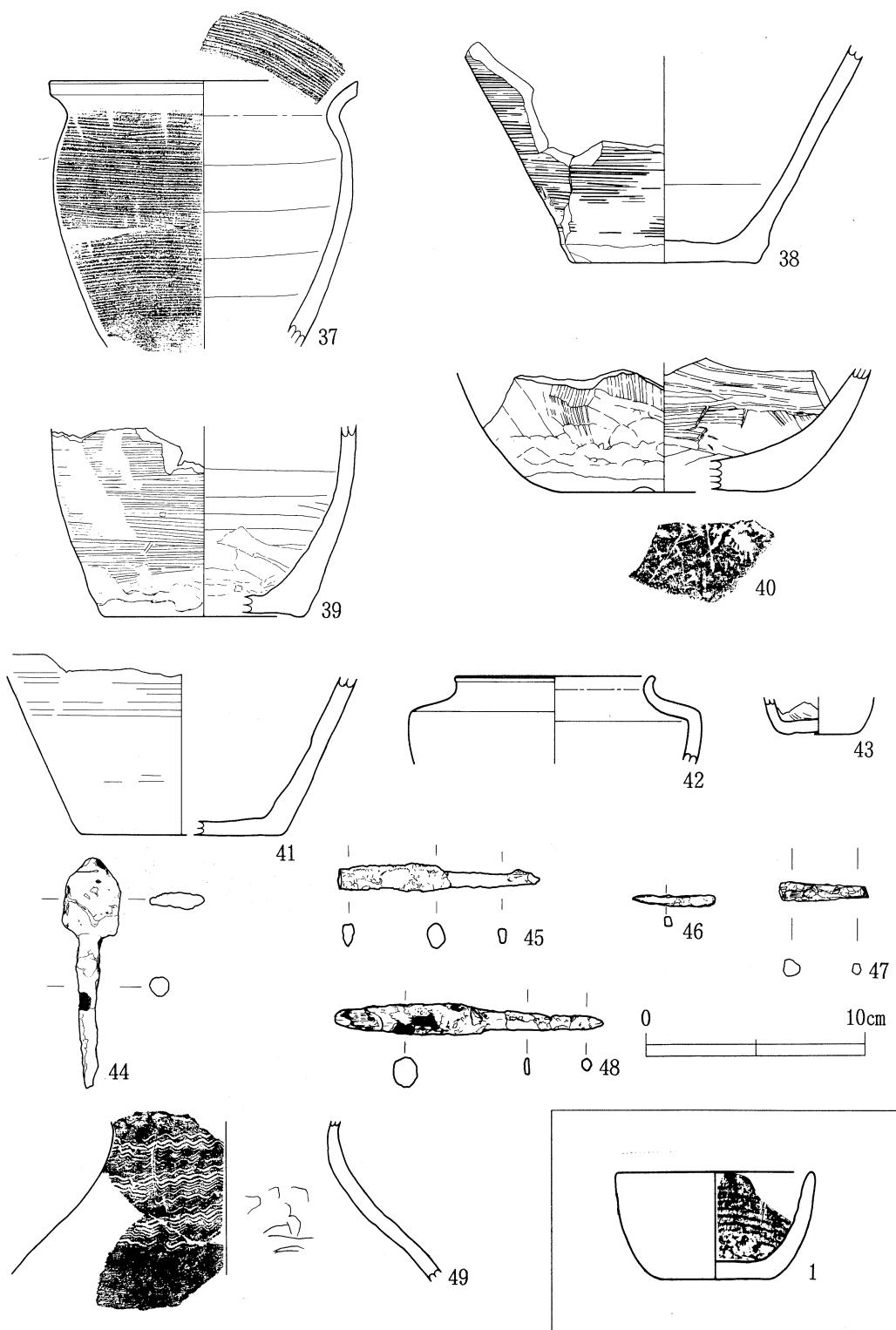
0 10cm



第20図 4号住居址出土遺物 (1/3)

第21図 4号住居址出土遺物 (1/3)





第22図 4号住居址出土遺物 (1/3)

第23図 5号住居址出土遺物 (1/3)

番号	種類	器形	法量		胎土	色調(内面 外)	整形・特徴・その他
			器高・口径	底径			
47	鉄器	不明					
48	鉄器	刀子					
49	弥生土器	壺	—, —, —	砂粒を含む	にぶい黄橙色 にぶい橙色	内面一雑なヘラ整形 外面一櫛描波状文が横走している 頸部破片	

<5号住居址> (第15・23図)

[遺構]

5号住居址は4号住居址の西壁を切って構築されている。遺構の大部分は調査区域外であり、僅かにカマドが確認されたのみである。発掘はできなかったが、南北方向で約3.2mを測る竪穴と思われる。

[遺物]

僅かに1点のみである。

出土遺物一覧

(単位 cm)

番号	種類	器形	法量		胎土	色調(内面 外)	整形・特徴・その他
			器高・口径	底径			
1	土師器	鉢	4.9, 8.8, 4.9	砂粒を含む	橙色 明赤褐色	内面一横撫で一部剥離 外面一口縁部横撫で 胴部ヒビ割れの為不鮮明	1/2残

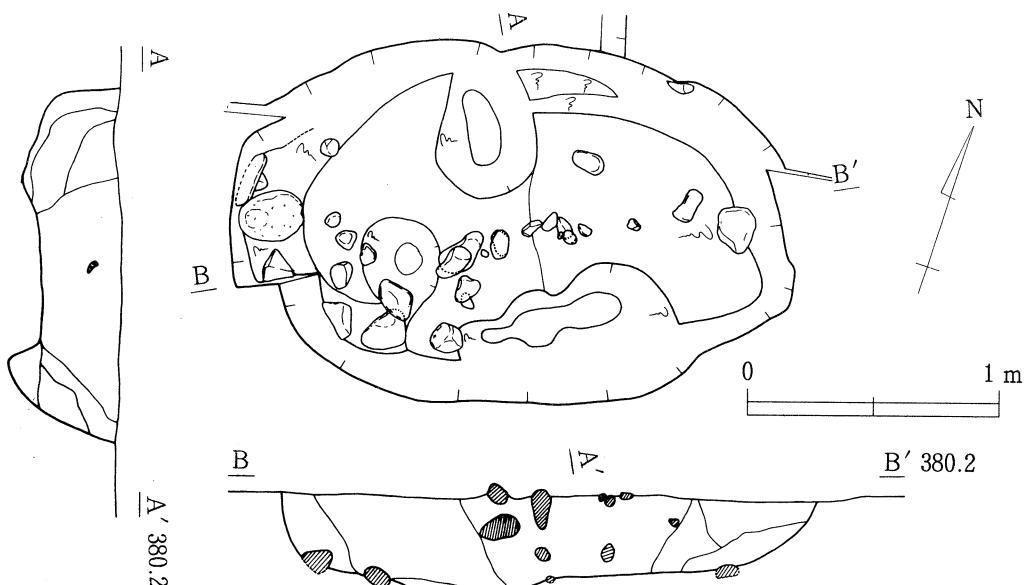
<1号土坑> (第24・25図)

[遺構]

調査区域中央西側に位置する。規模は、東西約2.1m、南北約1.4mで不整な長楕円形の平面形を呈する。確認面からの深さは20~40cm前後。遺構の性格は不明。

[遺物]

出土した遺物は少ない。縄文時代のものである。



第24図 1号土坑平・断面図 (1/30)

出土遺物一覧

(単位 cm)

番号	種類	器形	法量		胎土	色調(内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高	口径・底径			
1	縄文土器	鉢	—	26.4, —	砂粒を含む	明赤褐色 橙色	口縁部に凹みがみられる 内面—丁寧な磨き 外面—口縁部は磨かれ、胴部は結節縄文が施されている 口縁部・胴部破片
2	縄文土器	深鉢	—	—, 8.0	粗い砂粒を含む	にぶい褐色	外面—底部に網代痕 底部破片

<遺構外> (第26図)

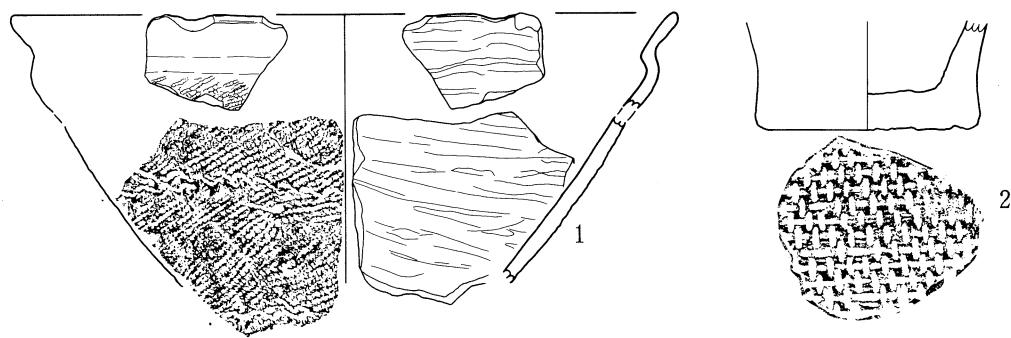
[遺物]

本遺跡からは遺構に伴うもの以外に、遺物が出土しており、以下に特徴的なものをあげて一覧表に示す。

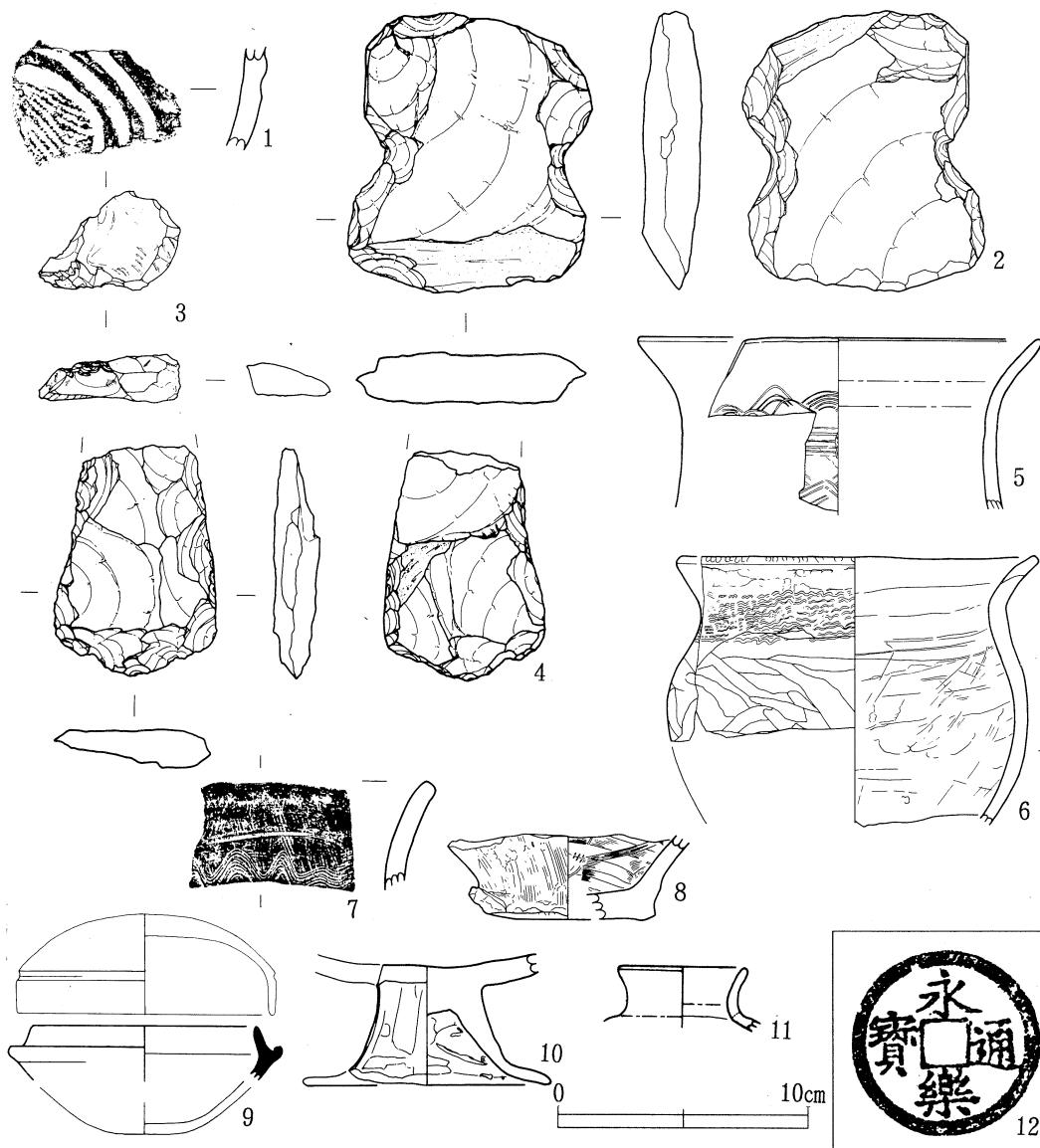
出土遺物一覧

(単位 cm)

番号	種類	器形	法量		胎土	色調(内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高	口径・底径			
1	縄文土器	深鉢	—	—, —	砂粒を含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色	沈線文と縄文が施されている 破片
2	石器	打製石斧	長巾厚 11.1, 9.4, 2.4				石材は珪化压碎片状ホルンヘルス
3	石器	石核					石材は黒曜石
4	石器	打製石斧	長巾厚 9.2, 6.5, 1.8				石材は硬砂岩 基部欠損
5	弥生土器	小型甕	—	15.8, —	白色粒子を含む	橙色 明赤褐色	内面一横撫で 外面—頸部にかけて櫛描波状文、簾状文が施される 口縁部破片
6	弥生土器	小型甕	—	13.4, —	白・黒色粒子と微量の赤色粒子を含む	にぶい橙色～灰褐色	口唇部は刻み 内面一口縁部に輪積み痕 外面—頸部に櫛描波状文、胴部内外面雑な撫での様な削り(?)がみられる 口縁部～胴部破片
7	弥生土器	甕	—	—, —	金雲母、砂粒を含む	にぶい橙色 にぶい褐色	内面一横撫で 外面一櫛描波状文 口縁部破片
8	弥生土器	甕	—	—, 6.8	砂礫を含む	にぶい橙色 にぶい褐色	内面一横刷毛目 外面一縱刷毛目 底部破片
9	須恵器	壺	—	8.8, —	細かい砂粒を含む	灰色	降灰している 口縁部破片
10	土師器	高壺	—	—, 9.9	赤・白色粒子を含む	橙色 にぶい赤褐色	外面一脚部縦方向にヘラ削りが施され、内側には雑なヘラ削りがみられる 脚部破片
11	縄文土器	深鉢	—	5.0, —	細かい砂粒を含む	にぶい褐色	内外面一撫で
12	錢貨		径 =	2.5cm			



第25図 1号土坑出土遺物 (1/3)



第26図 遺構外出土遺物 (1/3)

V ま と め

坂井堂ノ前遺跡の周辺は、遺跡が数多くあり、なかでも奈良・平安時代の遺跡数・遺構数は相当量に及ぶ。今回の発掘調査でも当然奈良・平安時代の遺構が発見されるものと予想された。しかしながら、前章でみたように、発見された遺構は奈良時代ばかりでなく、これまで当該地域で発見例がなかった古墳時代後期の竪穴住居址が2軒確認された。このことは藤井平の歴史の空白部分を埋めるものとして、貴重な発見であり、調査当初から見れば歓迎すべき誤算であったといえよう。しかも同じ年に調査された200m程南に離れた後田第2遺跡からも同時期の遺構が発見されており、この時期の集落の展開が遺構を通して推測されることになった。

もともと本遺跡の西約300mには、「火の雨塚」と呼ばれる古墳時代の後期古墳（現在は韮崎市文化ホール駐車場の中に保存されている。）が存在しており、地元の言い伝えによると、この塚はかつて富士山が大爆発したときに爆発によって降り注ぐ火の雨を避けるためにつくられた石室のひとつであったという。この伝承は地元住民の石室が数多くあったと伝えており、そうであれば群集墳であった可能性が高く、かつては後期古墳がこの地に点在しており、本遺跡周辺に集落が形成されていたという景観が想定できる。本遺跡の発掘によって古墳時代後期の様相がある程度明らかにされたことは大きな成果と言える。

また、当初予想した奈良時代の遺構は竪穴住居址2軒で、そこからは盤状の壺が出土している。盤状の壺は、甲斐型土器研究グループによる研究成果により、甲斐型土器の年代が従来の甲斐地域編年よりおよそ50年遡ることになり、それまで奈良時代に置かれていた盤状の壺も8世紀前半代に押し込められる結果となっており、近年甲斐型壺の出現の問題とともにその編年に見直しが迫られている。このような状況のなか、本遺跡から出土した盤状の壺は、良好な一括資料となり得るもので今後の編年研究に資するところ大であり、重要な発見であったと言える。

本遺跡の発掘によって、当該地域には古墳時代・奈良時代の集落が存在していたことが明らかになった。そこから得られた資料は地域の歴史を復元する上で非常に重要なものであり、貴重な文化遺産ではあるが、本報告書は限られた期間のなかで行われたものであり、それらのすべてに言及出来ず、遺構とそこから出土した遺物を取り上げ掲載したものにすぎない。不十分な点は否めないが、本書が古墳時代・奈良時代の研究に活用されるものと信じ、まとめとしたい。

写 真 図 版



図版 1



一号住居址



発掘風景

図版 2



2号住居址



3号住居址

図 版 3



4号住居址



1号土坑

図版 4



遺跡近景



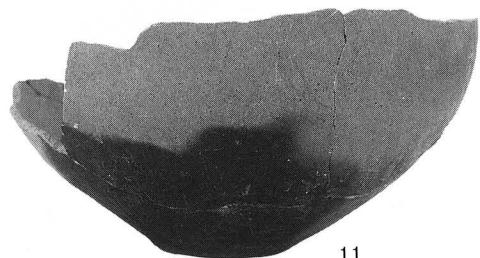
1号住居址出土遺物



2



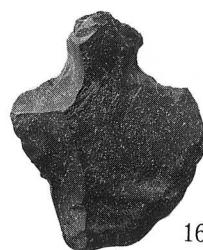
7



11



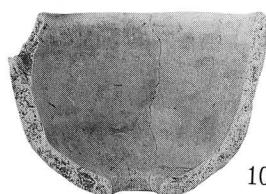
15



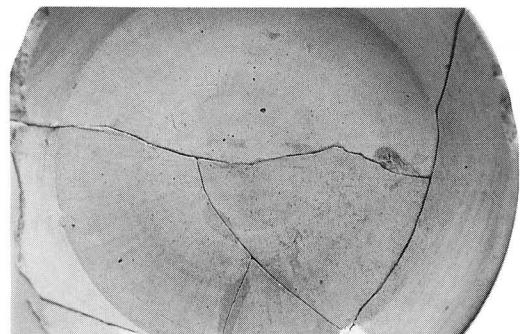
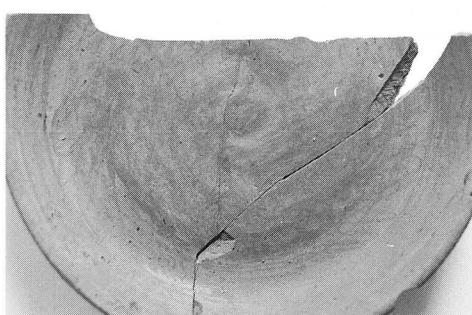
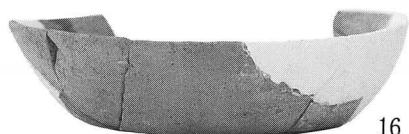
16

2号住居址出土遺物

図版 5

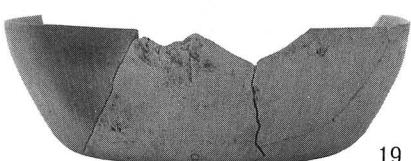
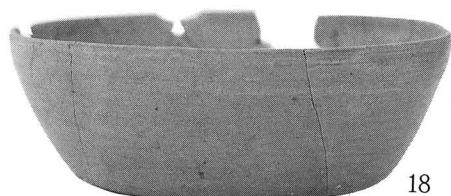


3号住居址出土遺物

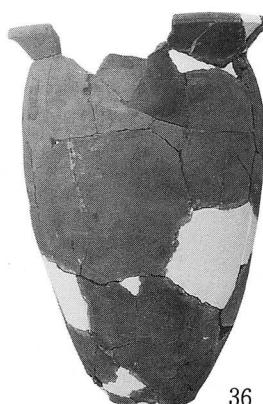


4号住居址出土遺物

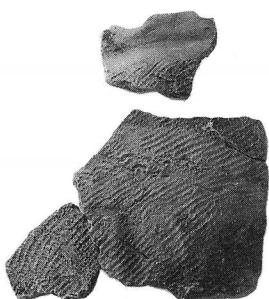
図版 6



19 内面暗文



4号住居址出土遺物



1号土坑出土遺物



遺構外出土遺物

坂井堂ノ前遺跡

発行日 平成8年5月30日

発 行 莩崎市教育委員会
 莩崎市遺跡調査会

〒407 山梨県莩崎市水神一丁目3-1
TEL 0551-22-1111(代)

印 刷 アートプリント社
